

# WINTER CONCERT 2

February 2023  
NHK Symphony Orchestra, Tokyo

# 感染症予防対策についての取り組み

みなさまに安心して演奏をお楽しみいただけるように、以下の感染症予防対策について、ご理解・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

- 会場内では、必ずマスクを正しく常時着用し、手洗い、手指の消毒、咳エチケットにご協力ください。
- 感染予防のため休憩中も含め、客席内ではご自身のお座席以外への着席はご遠慮ください。
- 入退場時および会場内では、まわりの方々との距離を確保した上で行動くださいますよう、ご協力をお願いいたします。また、混雑緩和のために入退場時に、制限をさせていただく場合がありますので、あらかじめご了承ください。
- プログラムは所定の場所からお客様ご自身でお持ちください。
- 政府や自治体によるイベント開催要件に変更があった場合は、チケット販売の一時停止や入場者数上限の設定等を行います。
- ロビー等では大きな声での歓談はお控えください。
- 「ブラボー」等の掛け声はお控えください。
- サイン会は実施しません。また、楽屋口での出演者の入待ち・出待ちはお断りいたします。また出演者への面会もお断りいたします。
- 万が一、ご来場のみなさまの中から新型コロナウイルス感染者が発生した場合には、保健所など公的機関へチケット購入時にいただいたお客様の情報を提供する場合がございます。またその場合、複数枚をご購入いただいた方には、同伴者など、当日ご来場いただいた方の連絡先をお伺いいたします。あらかじめご承知おきください。
- 喫茶コーナーは会場により、営業縮小もしくは休止している場合があります。
- 会場内でのお食事はお控えください。また持ち込みもご遠慮ください。
- ブランケット等の貸し出しサービスは休止いたします。必要に応じて、防寒の備えをお勧めいたします。
- 会場内のドアノブや座席の手すりなどはあらかじめ消毒を実施します。
- 会場内の常時換気、開場中および休憩中の客席扉の開放など空気の入替えに努めます。
- スタッフもマスクの着用やこまめな手指の消毒等、ご来場のみなさまと同様に感染予防の対策を行います。

## お客様へのお願い



公演中は携帯電話、時計のアラーム等は必ずお切りください



演奏は最後の余韻までお楽しみください



会場での録画、録音、写真撮影は固くお断りいたします（終演時のカーテンコールをのぞく）



私語、パンフレットをめくる音など、物音が出ないように配慮ください



演奏中の入退場はご遠慮ください



補聴器が正しく装着されているかご確認ください



終演時のカーテンコールを撮影していただけます

コンサート終演時、舞台上のカーテンコールをスマートフォンやコンパクトデジタルカメラなどで撮影していただけます。SNSでシェアする際には、ハッシュタグ「#N響」「#nhkso」の追加をぜひお願いいたします。ほかのお客様の映り込みにはご注意ください。撮影前にスマートフォンのフラッシュ設定が「オフ」になっているかご確認ください。

※撮影はご自身からとし、手を高く上げる、望遠レンズや三脚を使用するなど、周囲のお客様の迷惑となるような行為はお控えください



スマートフォンのフラッシュを「オフ」にする方法例

# PHILHARMONY

CONTENTS

FEBRUARY 2023

# 2

- 3 [公演プログラム] **Aプログラム**
- 8 [公演プログラム] **Bプログラム**
- 13 [公演プログラム] **Cプログラム**
- 17 [シリーズ] **N響百年史** | 第35回 | アウアー流、免許皆伝 片山杜秀
- 21 2023年4月定期公演のプログラムについて  
——公演企画担当者から
- 23 チケットのご案内
- 24 2022-23定期公演プログラム
- 25 2023-24定期公演プログラム
- 28 各地の公演
- 31 NHK交響楽団メンバー
- 32 特別支援・特別協力・賛助会員
- 36 曲目解説執筆者 / Information
- 37 みなさまの声を聞かせてください!
- 38 NHK SYMPHONY ORCHESTRA, TOKYO  
Members
- [Artist Profiles & Program Notes]
- 39 Program A
- 43 Program B
- 47 Program C
- 49 The Subscription Concerts Program 2022-23
- 50 The Subscription Concerts Program 2023-24
- 53 役員等・団友

## インターネットアンケートに ご協力ください

N響では、今後のよりよい公演の実現に向けて、インターネットでアンケートを行っています。ご鑑賞いただいた公演のご感想や、N響の活動に対するみなさまのご意見を、ぜひお寄せください。ご協力をお願いいたします。

詳しくは37ページをご覧ください



こちらのQRコードから  
アンケートページへアクセスできます



<https://www.nhkso.or.jp/enquete.html>

# Special Thanks




## NHK SYMPHONY ORCHESTRA T O K Y O

特別支援

岩谷産業株式会社

 三菱地所株式会社

 みずほ銀行

公益財団法人 渋谷育英会

With Special Support of

Iwatani Corporation

Mitsubishi Estate Co., Ltd.

Mizuho Bank, Ltd.

Shibuya Scholarship Foundation

NHK交響楽団は上記の各社から特別支援をいただいております。

2020年2月、ウィーン・コンツェルトハウスにて  
©Lukas Beck

PROGRAM

A

第1977回

NHKホール

2/4 土 6:00pm

2/5 日 2:00pm

指揮

尾高忠明

チェロ

宮田 大

コンサートマスター

白井 圭

## 尾高尚忠

## チェロ協奏曲 イ短調 作品20 [39']

- I アレグロ・エネルジコ、エ・パッショナート  
 II レント・カンタービレ、コン・ヴァリアツィオーニ  
 III アダージョ・エスプレッシーヴォ  
 —アレグロ・コン・プリオ

—休憩(20分)—

## バヌフニク

## カティンの墓碑銘 [8']

## ルトスワフスキ

## 管弦楽のための協奏曲 [28']

- I 序奏:アレグロ・マエストーン  
 II 夜の奇想曲とアリオーソ:ヴィヴァーチェ  
 III パッサカリア、トッカータとコラル:  
 アンダンテ・コン・モート—アレグロ・ジュスト

※演奏時間は目安です。

## インターネットアンケートにご協力ください

N響では、今後のよりよい公演の実現に向けて、インターネットでアンケートを行っています。みなさまの貴重なご意見を参考にさせていただきます。ぜひお声をお寄せください。ご協力お願いいたします。

詳しくは37ページをご覧ください



こちらのQRコードから  
アンケートページへアクセスできます



<https://www.nhkso.or.jp/enquete.html>

## Artist Profiles

## 尾高忠明(指揮)



1947年生まれ。桐朋学園大学で齋藤秀雄に指揮を学ぶ。第2回民音指揮者コンクールで第2位に入賞、NHK交響楽団の指揮研究員となる。N響との共演は、初めて指揮した1971年以来半世紀におよび、2010年からは正指揮者をつとめている。大阪フィルハーモニー交響楽団の音楽監督として2018年から活躍するほか、東京フィルハーモニー交響楽団の桂冠指揮者、札幌交響楽団の名誉音楽監督、読売日本交響楽団の名誉客演指揮者、紀尾井ホール室内管弦楽団の桂冠名誉指揮者となり、国内各地の主要オーケストラに客演を重ねている。海外での活動歴も長く、イギリスのBBCウェールズ交響楽団の首席指揮者をつとめた後、桂冠指揮者の称号を贈られている。東京藝術大学の名誉教授など、後進の育成指導にも力を入れ、2021年から「東京国際音楽コンクール〈指揮〉」の審査委員長をつとめる。曾祖父の渋沢栄一を主人公とする『青天を衝け』など、NHK大河ドラマのテーマ曲の指揮でも親しまれている。なお父の尚忠は作曲家・指揮者、母の節子はピアニスト、兄の淳忠も作曲家という、音楽一家の出身である。今回は、父尚忠が1943年に作曲した《チェロ協奏曲》が取り上げられる。また、ポーランド出身のパヌフニクとルトスワフスキの2作は2008年5月の定期公演でも演奏しており、これらも思い入れの深い作品である。

[山崎浩太郎／音楽評論家]

## 宮田大(チェロ)



1986年生まれ。3歳でチェロを始める。桐朋女子高校音楽科(男女共学)を経て、桐朋学園大学ソリスト・ディプロマコースを首席で卒業した後、スイス、ドイツで学ぶ。倉田澄子、フランス・ヘルメルソンに師事。第74回(2005年)日本音楽コンクール・チェロ部門第1位を獲得し、2009年には第9回ロストロポーヴィチ国際チェロコンクール(パリ)で日本人として初めて優勝した。日本のみならず、世界各国のオーケストラと共演を重ねている。NHK交響楽団とは2013年に広上淳一の指揮によるドヴォルザークの《チェロ協奏曲》で初共演し、以後4回の共演を重ねる。定期公演には初の出演となるが、演奏する尾高尚忠(1911~1951)の《チェロ協奏曲》は、師である倉田澄子の父・高が初演したゆかりの深い作品でもある。その他、人形劇俳優・平常の演出による『ハムレット』での演奏、ギタリスト・大萩康司との『Travelogue』の録音・ツアーなど、多彩なジャンルのアーティストとの共演も多く、小澤征爾指揮の水戸室内管弦楽団との演奏は映像収録されて、芸術祭参加作品となった。

[片桐卓也／音楽ライター]

本日取り上げる3人の作曲家は、それぞれに学友として切磋琢磨<sup>せつ せき たく ます</sup>した間柄にある。尾高とパヌフニクは、ともに留学先のウィーンでワインガルトナーの薫陶を受けた。一方パヌフニクとルトスワフスキは、政治的制約に妨げられながらも、戦時下のワルシャワで音楽活動に邁進<sup>まいしん</sup>した。その後、まったく異なる境遇に身を置くことになった3人だが、今日はそれぞれの音楽に懸ける想いに改めて耳を傾けたい。

尾高尚忠

## チェロ協奏曲 イ短調 作品20

「ウイン[ウィーン]という世界的音楽の都で、多くの生きた大音楽家に接し、又古来楽聖の名曲の名演奏を聴き、優秀なる音楽学校生徒達と交わっていると、自分の空想していたものと実際のものとの、とんでもない程の距離を痛感して、これは到底駄目だ、馬鹿げた野望だ、という風に考えられて来る[中略]しかし一方、自分は音楽が好きだ、という事実に対する自らの確認は、修行に喜びを与え……案外に愉快的な途も拓けて来る」。これは、生前のインタビューで尾高尚忠<sup>ひきただ</sup>（1911～1951）が述べた言葉である。よく知られるように、彼は戦中から戦後初期にかけて日本の音楽界を牽引<sup>けんいん</sup>した作曲家・指揮者だが、およそ10年におよぶ留学生活のなかで、日本人の自分がはたして「本物」に辿り着けるのかという葛藤にさいなまれたようだ。しかしこの経験なくして、西洋音楽の語法に日本的な響きを絶妙に溶け込ませるといふ、彼独自の作曲様式は生まれ得なかっただろう。1943(昭和18)年に書かれた《チェロ協奏曲》は、まさに尾高のこのような和洋折衷的態度をもっともよく表す作品のひとつである。曲は、親友であり義弟でもあった、チェロ奏者の倉田高<sup>たかし</sup>に献呈され、初演された。

曲は3つの楽章からなる。第1楽章(アレグロ・エネルジコ、エ・パッションアト)は2/2拍子、イ短調。ソナタ形式。躍動感のある第1主題が奏されたあと、へ長調による柔和な第2主題が姿を現す。曲は展開部、再現部へと進んでいき、情熱的なカデンツァを経てコーダで力強く終わる。第2楽章(レント・カンタービレ、コン・ヴァリアツィオーニ)は4/4拍子、ロ短調。主題とその変奏で構成された緩徐楽章である。主題は変奏を重ねながら次第に熱を帯び、クライマックスへと向かう。カデンツァのあと、最後に主題が回想されて静かに終わる。第3楽章(アダージョ・エスプレッシヴーヴォーアレグロ・コン・プリオ)は4/4拍子、イ短調。A-B-A-C-Aのロンド形式。荘重な序奏ののち、疾走感のある主題Aがチェロによって奏される。この主題は第1楽章の第1主題に由来しており、第2楽章の主題とも関連する。軽快な主題B、5/4拍子の優美な主題Cが奏されたあと、主題Aの回想を経て、序奏の旋律とともに力強く曲は閉じられる。

作曲年代	1943年
初演	1944年6月21日、東京の日比谷公会堂、倉田高独奏、作曲家自身の指揮、日本交響楽団（現NHK交響楽団）
楽器編成	フルート3（ピッコロ1）、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット3、トロンボーン3、チューバ1、ティンパニ1、大太鼓、ハープ1、弦楽、チェロ・ソロ

## パヌフニク

### カティンの墓碑銘

アンジェイ・パヌフニク（1914～1991）は、ワルシャワ音楽院で作曲を学んだ後、ウィーンとパリで学んだ作曲家・指揮者である。早くから国内外で高い評価を得ていたが、共産党当局との確執から1954年にイギリスに亡命。最終的には「騎士」の称号を贈られるほどの成功をおさめたものの、祖国で作品が演奏禁止の憂き目に遭うなど、波乱に満ちた生涯を送った。ワルシャワ時代、学友だったルトスワフスキとピアノ・デュオを組み、活動していたことはよく知られており、ルトスワフスキによる《パガニーニの主題による変奏曲》（1941）は彼らのレパートリーとして生み出された作品である。

パヌフニクは、生涯にわたりポーランドに因んだ作品を書き続けた。1967年に作曲された《カティンの墓碑銘》は、作曲家自身が総譜の冒頭に記しているように、第2次世界大戦中に「カティンの森」で虐殺された1万5000人のポーランド人戦争捕虜たちに捧げられた作品である。のちにパヌフニク本人が語ったことによれば、この作品を書くことで、共産主義下において語られることのない残酷な犯罪と隠蔽された真実に対する西側諸国の人々の関心を呼び起こしたいという思いがあったようだ。

作品全体は導入と3つの部分からなる。独奏ヴァイオリンが旋法的な旋律を奏でたあと、第1部ではその旋律を木管楽器が受け継いでいく。第2部では弦楽器が主体となり、奏者それぞれがソリストとなる形で、2度音程のモチーフを積み上げていく。音楽はクライマックスへと向かい、感情を噴出させるかのように冒頭の主題が総奏で再現される。5音からなるリズム・モチーフの執拗な反復でやがて緊張が増していき、最後は重々しい打撃音に断ち切られて曲が閉じられる。

作曲年代	1967年
初演	1968年11月17日、ニューヨークのカーネギー・ホール、レオポルド・ストコフスキー指揮、アメリカ交響楽団
楽器編成	フルート3（ピッコロ1）、オーボエ2（イングリッシュ・ホルン1）、クラリネット2、ファゴット2、コントラファゴット1、チューバ1、ティンパニ1、弦楽



## 管弦楽のための協奏曲

ヴィトルト・ルトスワフスキ(1913~1994)は、その<sup>うよきよくせつ</sup>紆余曲折の歩みから、まさに「戦後のポーランド現代音楽」を象徴する存在である。《管弦楽のための協奏曲》は、1950年に当時のワルシャワ・フィルハーモニー管弦楽団の指揮者ヴィトルト・ロヴィツキからの依頼により書かれた作品だが、共産主義体制の文化政策と折り合いを付けつつ、モダニズム的な方向を追い求めた様子がここでもうかがえる。彼は、楽団の能力を十分に発揮できる様式として、ハンガリーのバルトークの同名作品にみられるような合奏協奏曲の様式を取り入れた。その際、ポーランドの民族誌家オスカル・コルベルクの民謡集から複数の民謡を素材として取り入れたが、それらを分解・発展させることにより多種多様な響きを作り出した点にバルトークの影響を見て取れよう。伝統的な形式によりつつ、新しい作曲技法も取り込んだ本作品は大成功を収め、ルトスワフスキの名を一躍世界に知らしめた。

全体は3つの楽章からなる。第1楽章〈序奏〉は、いわば作品全体の「序曲」である。導入部ではチェロが奏する主要旋律が対位法的に発展。やがてホルンによる旋律、弦楽器によるストラヴィンスキー風の打撃和音が現れると、曲は全音階的な素材と無調的な音響とが混ざり合いながらクライマックスへと向かう。終結部は一転して静けさに包まれ、チェレスタが高音域で嬰へ音を打ち鳴らすなか、冒頭の主要旋律が回想される。第2楽章〈夜の奇想曲とアリオーソ〉は、中間部にアリオーソを置くスケルツォ形式。無窮動的な奇想曲とファンファーレを思わせるアリオーソが対比され、それぞれに異なる民謡の断片が顔を出す。第3楽章〈パッサカリア、トッカータとコラール〉は先行する2つの楽章を統合する長大な終曲。「パッサカリア」では民謡の旋律が変奏されながら積み上げられていき、「トッカータ」では同じ旋律が第1主題として用いられる。第2主題は冒頭楽章のホルンの主題から取られており、2つの主題をもとに曲は展開していく。終結部は、木管楽器のコラールと対旋律からなり、「パッサカリア」の主題を交錯させながら壮大なクライマックスが築かれる。

作曲年代	1950~1954年
初演	1954年11月26日、ワルシャワのローマ・ホール、ヴィトルト・ロヴィツキ指揮、ワルシャワ・フィルハーモニー管弦楽団
楽器編成	フルート3(ピッコロ2)、オーボエ3(イングリッシュ・ホルン1)、クラリネット3(バス・クラリネット1)、ファゴット3(コントラファゴット1)、ホルン4、トランペット4、トロンボーン4、チューバ1、ティンパニ1、シンバル、サスペンデッド・シンバル、タンブリン、グロッケンシュピール、タムタム、中太鼓、小太鼓、大太鼓、シロフォン、ハープ2、チェレスタ1、ピアノ1、弦楽

PROGRAM

B

第1979回

サントリーホール

2/15 水 7:00pm

2/16 木 7:00pm

指揮 ヤクブ・フルシャ

ピアノ ピョートル・アンドルシェフスキ\*

コンサートマスター 白井 圭

ドヴォルザーク

序曲「フス教徒」作品67 [14']

シマノフスキ

交響曲 第4番 作品60

「協奏交響曲」\* [25']

I モデラート

II アンダンテ・モルト・ソステヌート

III アレグロ・ノン・トロッポ、

マ・アジタート・エ・アンシオーソ

—— 休憩 (20分) ——

ブラームス

交響曲 第4番 小短調 作品98 [41']

I アレグロ・ノン・トロッポ

II アンダンテ・モデラート

III アレグロ・ジョコーソ

IV アレグロ・エネルジコ・エ・パッショナート

※演奏時間は目安です。

インターネットアンケートにご協力ください

N響では、今後のよりよい公演の実現に向けて、インターネットでアンケートを行っています。みなさまの貴重なご意見を参考にさせていただきたく、ぜひお声をお寄せください。ご協力お願いいたします。

詳しくは37ページをご覧ください



こちらのQRコードから  
アンケートページへアクセスできます



<https://www.nhkso.or.jp/enquete.html>

## ヤクブ・フルシャ(指揮)



シンフォニーとオペラの両輪で躍進が続く。音楽への篤実な姿勢と技、熱きタクトが身上で、ドイツ、バンベルク交響楽団首席指揮者のポストは2026年まで延長された。2022年夏にはザルツブルク音楽祭でヤナーチェクの《歌劇「カーチャ・カバノヴァー」》を任されている。また、2025-26シーズンから英国ロイヤル・オペラ・ハウス(ROH)の音楽監督に就任することが発表された。

1981年チェコ、モラヴィア地方の中心都市ブルノ生まれ。プラハ芸術アカデミーでイルジー・ビェロフラーヴェクに師事し、ラドミル・エリシュカの薫陶を受ける。2006年初来日。2010年、プラハの春音楽祭の開幕公演で《わが祖国》を指揮。同年から2018年まで東京都交響楽団の首席客演指揮者に迎えられた。アムステルダム のロイヤル・コンセルトヘボウ管弦楽団への客演、ウィーン国立歌劇場でのヤナーチェク《マクロプロス事件》も賞賛を博す。2018年にベルリン・フィルハーモニー管弦楽団、2019年にはウィーン・フィルハーモニー管弦楽団の各定期公演にデビュー。北米の主要オーケストラとも深い絆で結ばれている。現在バンベルク交響楽団首席指揮者のほか、チェコ・フィルハーモニー管弦楽団、ローマ聖チェチーリア国立アカデミー管弦楽団の各首席客演指揮者を兼務。録音も多く、2022年には<sup>よすづつ</sup>天才作曲家ハンス・ロットの《交響曲第1番》がリリースされた。N響との初共演は2019年4月の定期公演Aプログラム。

[奥田佳道／音楽評論家]

## ピョートル・アンデルシェフスキ(ピアノ)



ピョートル・アンデルシェフスキは1969年、ポーランド人とハンガリー人の両親のもとワルシャワに生まれた。1990年のリーズ国際コンクールを途中棄権したもの、セミ・ファイナルで演奏したベートーヴェンの《ディアベッリ変奏曲》が注目を集め、翌年2月にロンドンのウィグモア・ホールでデビュー・リサイタルを行った。来日もたび重ね、前回2021年には先に録音も行ったバッハ《平均律クラヴィア曲集第2巻》の選集

で新境地を拓いた。レパートリーには徹底して慎重な姿勢を貫き、バッハ、モーツァルト、ベートーヴェン、ウェーベルン、ショパン、シューマン、ヤナーチェク、バルトークなどの限られた作品に集中。「さまざまな矛盾を抱えた多義的な存在」と自らを称するアンデルシェフスキだけに、ポーランドの偉才シマノフスキには特に深い愛着を抱き、2004年には《ピアノ・ソナタ第3番》ほかを録音、同作で英国のグラモフォン賞も得ている。《協奏交響曲》は彼が熱望する作品で、2006年にもシャルル・デュトワの指揮でN響と披露したが、今回ヤクブ・フルシャとともにあらためて光を当てる。N響とは3度目、2015年以来の共演となる。

[青澤隆明／音楽評論家]

チェコを代表するのみならず、同世代の中でも最前線をひた走る指揮者として活躍するヤクブ・フルシヤ。今回N響との共演に選ぶ3曲は、3人の作曲家が自国の歴史や文化、音楽的な遺産と向き合う、「アイデンティティ証明」の作品である。ポーランド出身のピョートル・アンデルシェフスキも、その趣旨に共感しての共演となろう。世界各地で民族や文化の多様性を抑圧する動きが顕著な昨今、私たちに問いを投げかけるプログラムだ。

## ドヴォルザーク

## 序曲「フス教徒」作品67

アントニン・ドヴォルザーク(1841~1904)の時代のチェコはオーストリア=ハンガリー帝国の支配下にあったが、一方でスラヴ民族の統一的連帯を目指す「汎スラヴ主義」も勃興していた。ドヴォルザークもこの政治的潮流に強く影響され、本作はその代表的なひとつである。表題の「フス教徒」は、15世紀初頭に宗教改革を行い火刑に処せられたヤン・フス(1369頃~1415)の支持者であり、1420~1434年の間、チェコに独立政権を打ち立てた。いわばフス教徒はその後のチェコの人々にとって自主独立の象徴である。

本作は、チェコ国民劇場の総裁シュペルトが企画したフス派を主題とする演劇三部作の劇音楽としてドヴォルザークに依頼された。劇自体は未完に終わったが、ドヴォルザークの序曲は完成し、1883年11月13日にアンゲル指揮のプラハ国民劇場管弦楽団により初演されている。

序曲はドヴォルザーク自身の手によるコラル風の旋律で始まるが、その後すぐ不安な様相となり、2つの伝統的な旋律が引用される。まずフス教徒のターボル派(過激派)の軍歌に起源をもつ《コラル「汝ら神の戦士たち」》がファンファーレ的に響く。ちなみにこのコラルは先輩スメタナの《連作交響詩「わが祖国」》の第5、6曲でも使用されている。もうひとつは慰撫するように現れる、チェコの守護聖人ヴァーツラフを讃える12~13世紀のコラル(ドヴォルザークの弟子スークも《聖ヴァーツラフのコラルによる瞑想曲》で使用)。2つのコラルを扱いつつ、中盤でフス戦争を暗示する闘争的な展開が続き、最後は輝かしく冒頭コラルが回帰し、民族の不羈独立を確信して終結する。

作曲年代	1883年
初演	1883年11月13日、アンゲル指揮プラハ国民劇場管弦楽団
楽器編成	フルート2、ピッコロ1、オーボエ2(イングリッシュ・ホルン1)、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、トロンボーン3、チューバ1、ティンパニ2、大太鼓、トライアングル、シンバル、ハープ1、弦楽

## 交響曲 第4番 作品60「協奏交響曲」

カロル・シマノフスキ(1882~1937)の祖国ポーランドも、大国に支配される時代が長く続いた。ヤギエヴォ朝の時代、特に16世紀は文化的にも欧州の一流国だったが、やがて各国の干渉と侵攻を許し、最終的には1795年、オーストリア、プロイセン、ロシアに国土を3分割される。19世紀には民族運動が頻繁に起こるも鎮圧され、シヨパンも故国を去った。

シマノフスキは、抑圧の時代と、第1次世界大戦が終結し、ポーランド第二共和国が誕生した1918年以降を生きた。民族主義の高揚が率直に音楽に反映されて不思議はないが、むしろその音楽は複雑な変転の軌跡を描く。それは、西洋の音楽語法が激変した時代であると共に、彼がかつてポーランド領でありながら当時はロシア領だったウクライナに生まれたことも無縁ではないのかもしれない。まるで自分探しのように、後期ロマン派の世界から印象主義的書法と東洋・古代思想とが混じり合う時期を経て、ポーランド独立後ようやく彼は自国の民俗音楽に向かい合う。

《交響曲第4番》はこの時代、1932年に作曲された。シマノフスキは1927年にワルシャワ音楽院の院長に就任し、積極的に改革と教育に邁進したが、守旧派との軋轢や同性愛的傾向への非難に苦しみ1932年に辞職。定職を失いピアニストとしての収入を求めたシマノフスキは、自らを独奏者とし、かつ重量感ある管弦楽で独奏の負担を軽減する本作を構想・作曲した(副題の「協奏交響曲」はこの楽曲の性格を示す)。作品は大ピアニスト、アルトゥール・ルビンシュタイン(シマノフスキの親友)に献呈された。そして1932年10月9日、彼自身の独奏、フィテルベルク指揮ボズナン市管弦楽団により同市で行われた初演は成功、人気曲となる。シマノフスキの死の2年後、ポーランドはナチス・ドイツとソ連に蹂躪される。その悲劇の前の、東の間の祝祭だった。

第1楽章は冒頭からピアノが両手のユニゾンで民俗的な旋律を奏するが、ポーランド南部のタトラ山脈地域の民俗音楽に由来する。ヴァイオリンによる叙情的な第2主題と共にソナタ形式を構成、後半にはピアノのカデンツァが現れる。古典回帰の印象があるが、複調的で入り組んだ書法はシマノフスキならではの。夢幻的で第1次世界大戦前のシマノフスキの作風を思わせる緩徐な第2楽章から、ティンパニに導かれ躍動する民俗舞曲風の第3楽章へと続く。

作曲年代	1932年
初演	1932年10月9日、作曲者自身の独奏、フィテルベルク指揮ボズナン市管弦楽団
楽器編成	フルート2(ピッコロ1)、オーボエ2(イングリッシュ・ホルン1)、クラリネット2(Esクラリネット1)、ファゴット2(コントラファゴット1)、ホルン4、トランペット3、トロンボーン3、チューバ1、ティンパニ1、トライアングル、小太鼓、大太鼓、シンバル、サスペンデッド・シンバル、タムタム、ハーブ1、弦楽、ピアノ・ソロ

## 交響曲 第4番 ホ短調 作品98

ヨハネス・ブラームス(1833~1897)が生きた時代のドイツは、1871年のドイツ帝国の成立と宰相ビスマルクの政策によって強国への道を行っていた。ブラームスにも《運命の女神の歌》など愛国的な作品はある。だがその本懐は、「ドイツの音楽家」としての自己探究にあり。その規範はベートーヴェンであり、同時に壁ともなった。その9曲の交響曲の存在の大きさをゆえ、《交響曲第1番》(1876年完成)の完成まで多大な年月を要することになる。

最後の交響曲となった《交響曲第4番》(1885年完成)はどうだろう。ブラームスはここで、「交響曲以前」の古い技法を用いた。第1楽章に頻出する管楽器の古風な音型、第2楽章での古いフリギア旋法の使用。そして終楽章をバロック時代の変奏曲パッサカリアで構成する着想。こうした高度に歴史的な特色は作曲者自身が議論を覚悟しており、作曲地ミュルツツシューラクの名物にちなみ「甘くないサクランボ」と謙遜している。2台ピアノによる試演も友人たちの間で賛否は分かれ、さらにブラームスを支持する批評家ハンスリックすら頭を悩ませた。だが1885年10月25日、作曲者が指揮するマイニンゲン宮廷管弦楽団による同地での初演は大成功を収める。知的仕掛けは、深い憂愁を帯びつつ決然と劇的な楽曲内容とみごとに一致していたのである。

ブラームスは過去を探ることで、ドイツ人としての自己を掘り当てたのだろうか？むしろ「ドイツの伝統」外の要素がこの交響曲を特徴づける。フリギア旋法はグレゴリオ聖歌に遡り、パッサカリアはバッハ作品に範をとるが、フランスで頻繁に用いられた形式である。またトライアングル鳴り響く陽気な第3楽章は民俗舞曲の趣で、《ハンガリー舞曲集》はじめ民衆音楽に関心の高かったブラームスの顔が見える。新旧の技法を駆使した、多様性に向けて開かれた新しい世界をこの交響曲に聴くことも可能なはずだ。

第1楽章は冒頭の3度音程の動機で組み上げられた主題から、提示部の反復をもたず滔々たる流れの中で有機的な展開が図られる。ホ音を中心としたフリギア旋法の主題が遠い鐘のこだまを思わせる第2楽章、野趣あふれるがソナタ形式で巧緻に書かれた第3楽章を経て、前述したパッサカリアの第4楽章に至る。低音主題はバッハの《カンタータ第150番》の終結合唱からとられ、全体は3部に分かれそれぞれがソナタ形式の提示部・展開部・再現部に該当するなど、古い技法が斬新な発想で用いられている。

作曲年代	1885年完成
初演	1885年10月25日、作曲者自身の指揮、マイニンゲン宮廷管弦楽団
楽器編成	フルート2(ピッコロ1)、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、コントラファゴット1、ホルン4、トランペット2、トロンボーン3、ティンパニ1、トライアングル、弦楽

PROGRAM

C

第1978回

NHKホール

2/10 金 7:30pm

2/11 土祝 2:00pm

指揮

ヤクブ・フルシヤ | プロフィールはp. 8

コンサートマスター

郷古 廉

[開演前の室内楽(Cプログラム限定)]

10日(金)6:45pm～/11日(土・祝)1:15pm～

ヴァイオリン: 松田拓之、宮川奈々 ヴィオラ: 中村洋乃理、小野 聡 チェロ: 渡邊方子、小島幸法  
チャイコフスキー/弦楽六重奏曲 ニ短調 作品70「フィレンツェの思い出」—第1楽章

※演奏はご自身の座席でお楽しみください。

※演奏中の客席への出入りは自由です。

## バーンスタイン

### 「ウエスト・サイド・ストーリー」から シンフォニック・ダンス[24']

- I プロローグ
- II サムホエア
- III スケルツォ
- IV マンボ
- V チャチャ
- VI 出会いのシーン
- VII クール・フーガ
- VIII ランブル
- IX 終曲

## ラフマニノフ

### 交響的舞曲 作品45 [35']

- I ノン・アレグロ
- II アンダンテ・コン・モート(テンポ・ディ・ヴァルス)
- III レント・アッサイーアレグロ・ヴィヴァーチェ

※この公演に休憩はございません。あらかじめご了承ください。  
※演奏時間は目安です。

## インターネットアンケートにご協力ください

N響では、今後のよりよい公演の実現に向けて、インターネットでアンケートを行っています。みなさまの貴重なご意見を参考にさせていただきます。ご協力をお願いいたします。

詳しくは37ページをご覧ください



こちらのQRコードから  
アンケートページへアクセスできます



<https://www.nhkso.or.jp/enquete.html>

ふたつの「交響的舞曲」。なるほど、面白いことを考えたものだ。この2曲は、一見するとタイトル以外には全く関係がないようだけれども、しかし、両曲の作曲年代は30年しか離れておらず、しかもアメリカという土地で書かれたという共通点がある。そしてなにより、この地に亡命してきたラフマニノフの管弦楽法が、アメリカの若手作曲家たちに与えた影響ははかりしれない。とすれば、この2曲は意外にも、どこか親子のような関係といえるようにも思うのだ。

## バーンスタイン

### 「ウエスト・サイド・ストーリー」からシンフォニック・ダンス

レナード・バーンスタイン(1918~1990)といえば、絶大な人気を誇ったスター音楽家だが、その華やかな活躍の一方で、さまざまな差別解消のために、生涯にわたって行動を起こし続けた人物でもあった。たとえば1947年に黒人歌手マリアン・アンダソンと共演し、1956年にはジャズ奏者ルイ・アームストロングと共演。まだ黒人差別が当たり前だった時期に、これははっきりとしたプロテストだったはずだ。

人種や音楽ジャンルにかんする寛容な姿勢は、そのまま《ウエスト・サイド・ストーリー》へと繋がっている。というのも、この物語は青春群像劇であり、恋愛劇であると同時に、なによりプエルトリコ系のアメリカ人に対する差別を<sup>えぐ</sup>抉り出す作品でもあったからだ。その音楽にバーンスタインほどふさわしい人もいないだろう。

《シンフォニック・ダンス》は、バーンスタインがシド・ラミンとアーウィン・コスタルの手を借り、1957年封切のミュージカルから特徴的な音楽を選んで大オーケストラ版に仕立てあげたもの。少々意外なのは、あの〈トゥナイト〉が入っていないことだ(有名曲では〈アメリカ〉もない)。これはつまり、単なる「ヒットメドレー」ではなく、30分ほどを要するひとつの作品だという意識のあらわれなのだろう。曲順が物語の順とは異なることも、それを裏書きしている。

全体は9曲(8曲と数えることもある)が、休みなしで連続する。

まず〈プロローグ〉では、増4度の不穏な響きに続いて、ジャズ風のニュアンスがジェット団とシャーク団を示す。次の〈サムホエア〉は、どこかに平和な地があると歌う恋人たちの歌で、ヴァイオリン独奏が活躍。続く〈スケルツォ〉は、争いのない夢の国へのあこがれを柔らかくうたう。

〈マンボ〉は、ダンスシーンで流れる大人気曲だが、これは同時にプエルトリコの位置するカリブ海を示す記号でもある。続く〈チャチャ〉は、みずみずしい出会いの音楽。やはり増4度で上行する〈マリア〉の旋律が織り込まれている。



〈出会いのシーン〉は、ヴァイオリンの独奏が絡み合う密やかな音楽。〈クール・フーガ〉では再びジャズの要素が前面にあらわれ、怪しげなフーガを形成する。意外なほど手の込んだ曲だ。続く〈ランブル〉で派手な乱闘シーンが描かれたあと、フルートのソロを経て〈終曲〉へ。ここで音楽は、ついに回想へと傾き、やわらかく全曲を閉じる。

作曲年代	1960年
初演	1961年2月13日、カーネギー・ホールにて、ルーカス・フォス指揮ニューヨーク・フィルハーモニックによる
楽器編成	フルート3(ピッコロ1)、オーボエ2、イングリッシュ・ホルン1、クラリネット2、Esクラリネット1、バス・クラリネット1、アルト・サクソフォーン1、ファゴット2、コントラファゴット1、ホルン4、トランペット3、トロンボーン3、チューバ1、ティンパニ1、小太鼓、中太鼓、大太鼓、トムトム、コンガ、音程のある4つの太鼓、ボンゴ、ドラム・セット、シンバル、サスペンデッド・シンバル、フィンガー・シンバル、カウベル、チューブラー・ベル、タムタム、トライアングル、ティンパレス、警笛、ウッド・ブロック、タンブリン、マラカス、グイロ、シロフォン、グロッケンシュピール、ヴィブラフォン、ハープ1、ピアノ1(チェレスタ1)、弦楽

## ラフマニノフ

### 交響的舞曲 作品45

華麗なピアノ音楽の作曲家として知られるセルゲイ・ラフマニノフ(1873~1943)だが、彼は生涯にわたって管弦楽にも卓越した手腕を発揮した。その音楽家としての有りようは、どこかフランツ・リストにも似ていよう。

きわめて大雑把な表現になるが、ドイツ系の管弦楽作品は、たいていは弦楽四重奏を拡大したようなオーケストレーションを特徴としている。弦楽器がしっかりと「地」を作り、管楽器がそこに色を付けてゆくというイメージ。一方、フランス系の管弦楽作品からは、木管五重奏を拡大した印象を受ける。ここでは管楽器と弦楽器の間に主従の差はない。

一方、ラフマニノフの管弦楽曲は、ドイツ系、フランス系のいずれとも異なる、独特の質感を持っている。それぞれの声部が並行して横に流れるなかで、複数の旋律が合わさり太いうねりを作るような、とても形容したらよいだろうか。これは彼が得意としたもうひとつのジャンル、「合唱曲」を拡大したものといえるかもしれない。

1940年に作曲された《交響的舞曲》は、ラフマニノフが完成させた最後の作品。すでに3つの交響曲や数々の交響詩をものした経験を生かして、ここで作曲者は生涯でもっとも重厚な、そして劇的な音楽を手がけることになった。現在、この曲の吹奏楽編曲が人気を得ているのも、そのダイナミックな推進力ゆえだろう。

「舞曲」と銘打たれてはいるものの、全体は3楽章制の交響曲のようでもあり、交響詩のようでもある。実際、もともとは各楽章に「真昼」「黄昏」「真夜中」というタイトルを付けることも検討されたという。初演は1941年初頭。ちなみに、管弦楽版に先立って作成

された2台ピアノ版は、作曲家自身とウラディーミル・ホロヴィッツによって初演された(なんと贅沢なデュオ!)

第1楽章(フ・アレグロ)は、密やかな弦の刻みにはじまり、決然とした主題が姿をあらわすと、まるで巨大な船が進水するようにして音楽が動きはじめる。穏やかな中間部の目玉はサクソフォーンのソロで、ここにピアノが絡んでくるのも面白い趣向。コーダではひそかに、彼の《交響曲第1番》の主題が顔をみせる。

第2楽章(アンダンテ・コン・モート)は、ロシア風のひねたワルツが、執拗<sup>しつよう</sup>にファンファーレで中断される幻想曲。どこか後ろ向き<sup>うしろむき</sup>の印象を与えるのは、作曲家の望郷の思いゆえか。

そして第3楽章(レント・アッサイー・アレグロ・ヴィヴァーチェ)は、オペラ的、あるいはスケルツォ的な性格を持ったフィナーレ。グロテスクな絶望から甘い郷愁まで、さまざまな感情が交錯する構成が特徴といえようか。しかも随所で《怒りの日》の旋律が引用されるのにくわえて、自作の《交響詩「死の島」》のワルツ主題が用いられ、さらに終盤ではロシア聖歌の《アレルヤ》の旋律が鳴り響く。かくして、まるで彼の人生の集大成のようにして、壮大なクライマックスのなかで全曲が閉じられる。

作曲年代	1940年
初演	1941年1月3日、フィラデルフィアにて、ユージン・オーマンディ指揮、フィラデルフィア管弦楽団による
楽器編成	フルート2、ピッコロ1、オーボエ2、イングリッシュホルン1、クラリネット2、バス・クラリネット1、ファゴット2、コントラファゴット1、アルト・サクソフォーン1、ホルン4、トランペット3、トロンボーン3、テューバ1、ティンパニ1、トライアングル、タンブリン、小太鼓、大太鼓、シンバル、サスペンデッド・シンバル、タムタム、グロッケンシュピール、シロフォン、テューブラー・ベル、ハープ1、ピアノ1、弦楽

# N響管百年史

## 第三十五回 — アウアー流、免許皆伝

片山杜秀 — Morihide Katayama

二〇二六年のN響創立百周年に向け、NHK-FM「クラシックの迷宮」のパーソナリティとしてもお馴染みの思想史研究者で、音楽評論家の片山杜秀さんが、時代背景とともにN響の歴史をひもときます。ケーニヒ国外退去という激震に見舞われた新交響楽団。窮地を救ったのは名ヴァイオリニスト、ニコライ・シフェルブラットでした。

### ケーニヒからシフェルブラットへ

1929(昭和4)年の4月9日と10日、新交響楽団が定期公演(当時は予約演奏会)の会場ともしている、東京の神宮外苑の日本青年館で、ニコライ・シフェルブラットが2日連続のヴァイオリン・リサイタルを開いた。ピアノ伴奏はマキシム・シャピロ。両日とも19時開演。曲目はそれぞれ異なった。しかも難技巧の大物が多い。バッハの《無伴奏ヴァイオリン・パルティータ》からの〈シャコンヌ〉、フランクとフォーレのソナタ、ラロの《スペイン交響曲》、チャイコフスキーの《協奏曲》。そんな弾いて大丈夫か。いやいや、彼は1890(明治23)年生まれ。日本の音楽家だと、山田耕筰より4つ、<sup>のぶとききよし</sup>信時潔より3つ年下。不惑間近の壮年期である。ヴァイオリニストの力と技はまさに盛りだった。SPレコードを聴きまくっているおかげで耳の肥えた、東京のうるさ方の聴衆もシャッポを脱いだ。さすがシフェルブラット、あのときの感動が<sup>よみがえ</sup>蘇る!

そう、再来日だった。初来日は1925(大正14)年の日露交驩(交歓)<sup>こうかん</sup>交響管絃楽演奏会のとき。ハルビンの東支鉄道交響楽団のコンサートマスターであったシフェルブラットは、交驩交響管絃楽演奏会のための特別に編成された日露混成の臨時オーケストラでもコンサートマスターを務め、圧倒的存在感を発揮した。そんなシフェルブラットは1929年にリサイタルをやりに来ただけではなかった。私立の東京高等音楽学院(現国立音楽大学)でヴァイオリンを教え、併せて新交響楽団にも関わってゆくということで話ができていた。東京ではすでに、日露交驩交響管絃楽演奏会のおりの次席コンサートマスターだったヨーゼフ・ケーニヒが久しく活躍していた。そこにシフェルブラットも加わる予定

だった。

けれども、前回触れたとおり、シフェルブラットが日本青年館で顔見世興行的なりサイタルを行なった翌々月の6月には、ケーニヒが警察の圧力で国外への自主退去の道を選ばざるを得なくなり、ケーニヒの後釜がシフェルブラットになる恰好<sup>かつこう</sup>で取まる。そこからの新交響楽団の歴史は、近衛秀麿<sup>このゑひでまろ</sup>とシフェルブラットの提携時代としてとらえることができるだろう。近衛が新交響楽団と決別するのが1935(昭和10)年。シフェルブラットが持病の喘息<sup>ぜんそく</sup>の発作により東京の自宅で急死するのは1936(昭和11)年10月14日。さらに言うと、ジョセフ・ローゼンストック(ヨーゼフ・ローゼンシュトック)が新交響楽団に招かれて“長期政権”を開始し、初めて定期公演を指揮するのは同年9月30日、つまりシフェルブラットの急逝<sup>きゅうせい</sup>する半月前である。シフェルブラットは喘息の悪化のせいで、指揮にもヴァイオリンにも次第に精彩を欠いていっていったらしい。この健康問題が、ポスト近衛としてシフェルブラットが積極的に名乗りをあげられなかった、ひとつの理由でもあろう。

日本交響楽協会から新交響楽団へ。それはすなわち、山田耕筰から近衛秀麿へと主役が交代した歴史には違いない。しかし、山田も近衛も作曲の道から指揮もするようになった人だ。技術や精神の面においてまだまだこれからというところのある若いオーケストラを実践的にトレーニングし、コーチする能力には必ずしも恵まれていない。交響楽団には、メンバーの個々の技量はむろんのこと、合奏体としての調和したカラーが求められる。楽団の響きを作っていかなければならない。離陸期のオーケストラには特に求められることであり、大正から昭和初期の、まちまちの仕方で勉強をした楽員たちがあちこちから集まっている日本の若い楽団

となれば、そういうプロセスが容易にうまく運ぶはずはない。それなのに当時の批評や録音から推察するかぎり、新交響楽団に低迷期というほどの時代はなく、腕前は一貫して右肩上がりで、難しい離陸をスムーズに果たし、ローゼンストック以降へと順接してゆく。そのへんに目を向ければ、「山田耕筰→近衛秀麿」の流れと表裏一体のものとして「ケーニヒ→シフェルブラット」というヴァイオリニスト兼指揮者の流れを強く意識せねば、歴史物語としては通るまい。

## 名トレーナー、シフェルブラット

シフェルブラットはロシア帝国の版図内のリトアニアで生まれ、同じく帝国の内のグルジア(ジョージア)の都、ティフリス(トビリシ)で育ち、同地の音楽学校でヴァイオリンを習い、ついでドレスデンとサンクトペテルブルクで学び、サンクトペテルブルクやモスクワのオーケストラのコンサートマスターを歴任し、ロシア革命から逃れてハルビンに移った。新交響楽団の定期公演への指揮者としてのデビューは、1929(昭和4)年10月27日の第56回。チャイコフスキーの《交響曲第5番》とリムスキー・コルサコフの《交響組曲「シェエラザード」》を並べた。1930年には20回行われた定期公演のうち9回を振り、ベートーヴェンの《交響曲第3番》、ブラームスの《第4番》、ホロディンの《第2番》、チャイコフスキーの《第6番》、グザフの《第6番》、ワーグナーの《楽劇「トリスタンとイゾルデ」》から〈前奏曲と愛の死〉、ドビュッシーの《交響詩「海」》等々を取り上げる。楽歴にふさわしいレパートリーの幅広さと、切れ味鋭くモダンな指揮で、定期会員を魅了してゆく。

それからコンチェルトの伴奏である。2月5日

の第63回定期では、小野アンナの独奏でコンニウスの《ヴァイオリン協奏曲》を取り上げた。小野アンナとは、第1次世界大戦下のサンクトペテルブルク改めペトログラードで日本人と結婚して小野姓を名乗り、1918(大正7)年に革命を避けて日本に亡命してきて、この国のヴァイオリン教育の大導師となったアンナ・ブノワのことである。また、10月22日の第76回定期では、新交響楽団の歴史でも“世界的人気ソリスト”を迎えた最初になろうエフレム・ジンパリス



ニコライ・シフェルブラット  
『フィルハーモニー』1929年3月号より

トと、ブラームスの《ヴァイオリン協奏曲》を共演している。これらの機会において楽員たちは、山田や近衛、あるいはケーニヒのもとでさえ会得できていなかった、協奏曲の伴奏の微妙なさじ加減に初めて開眼したと伝えられている。

だが、こうした個々の本番にも増して特筆大書されるべきは、むろんシフェルブラットによる日頃のトレーニングだ。彼はまずオーケストラの日々の練習の時間割についてのそれまでの習慣を変えた。日に2時間が基本だったのを3時間に延ばした。はじめ、楽員たちのあいだには怨嗟の声<sup>えんさ</sup>が満ち満ちた。が、次第に納得していった。自分たちがうまくなってゆくの<sup>おん</sup>がわかったからである。

新交響楽団のチェロ奏者、齋藤秀雄はシフェルブラット追悼号となった機関誌『フィルハーモニー』の1936年11月号に「シフェルブラット師

を憶<sup>おも</sup>ふ」と題してこう書く。「我々の質疑に対して即座に明確な判断を下し、指使ひや弓使ひなども一寸<sup>ちよつと</sup>も考へず直ちに教へられたものである。その上ヴァイオリン<sup>だけ</sup>でなくチェロの弓や指なども極めてよく知つてをられた。私達は師の指揮を通じて常に啓発される所があった。今にして考へてみれば、我々はシ師から、小学校から大学程度までの課程を手をとつて教へられた様なもので、シ師の滞日七年間に我々が受けた利益は量<sup>はか</sup>り知れない」

齋藤はシフェルブラットの教えをより詳らかにしようとする。「日本のヴァイオリンの模索時代に、アウアー流の正統的な、実地にヨーロッパで用ひられてゐる弓使ひや運指、扱ははオーケストラの実地の奏法を習つたことはヴァイオリン界の非常な利益であらう。勿<sup>もちろん</sup>論チェロに於ても同じである。新響の現在の奏法の根本はシ師によつて与へられた教示によるもので、新響の楽譜にはシ師の示したスラーや指使ひがはつきりと書かれてゐる」

アウアー流とはレオポルト・アウアーの流儀のこと。アウアーはハンガリー出身。サンクトペテルブルク音楽院で長年ヴァイオリンを教え、チャイコフスキーの《ヴァイオリン協奏曲》を演奏不能と退けたエピソードでも知られるが、何と云っても近代ヴァイオリン奏法の確立に絶大な寄与をした大音楽家である。実はシフェルブラットはペ

テルブルクでのアウアーの高弟のひとりであり、1930年に新交響楽団で共演した小野アンナもジンバリストも同門である。ヤッシャ・ハイフェッツやナタン・ミルシテインもアウアー門下だ。

## ケーニヒは指、シフェルブラットは弓

アウアー流について、もう少し具体的にしよう。同じ追悼号で、新交響楽団のヴァイオリン奏者、尾原勝吉はシフェルブラットの教えを回想して言う。「ケーニヒ師の後を襲って新響の指揮をされる様になってから、以前ケーニヒについて学んで居た者が殆んどシェ師に師事する事となって、私も其の中の一人だった。ケーニヒ師とシェ師はヴァイオリンの奏法、殊にボーイングが根本的に違って居たので暫く骨の折れた事は一通ではなかつた。ケ師は弓の方よりも指の方が非常にうるさく、シェ師は、指の方は餘りに云わなかつた代りに弓の方を実にうるさく云われ、散々脂を絞られた」

アウアー流でも、むろん楽器の持ち方も左手の指の位置もうるさく言うだろうが、それ以上に弓なのである。手首から自在に動かして運弓を確実にコントロールするために、弓に人差

し指を従来よりも深く、第二関節のあたりまで添えるようにと、執拗に指導したはずだ（各プレイヤーの手の寸法にもよるけれど）。アウアーから急速に広まったやり方で、特にハイフェッツが自家薬籠中のものとし、新世代の弦楽奏者は技を会得しようと競った。ケーニヒはそうなる前の世代に属する。

新交響楽団の弦楽セクションは、まずケーニヒによって19世紀後半の様式で教育され、次にシフェルブラットによって“近代化”し、やがて来るローゼンストックの時代に対応し得たと言ってよい。シフェルブラットは、おそらく第2次世界大戦後まで通用する演奏のスタイルというかカルチャーを、オーケストラ全般に、特に弦楽部に培ったのだ。シフェルブラットは新交響楽団に20世紀的な顔を与えた。

## 文 | 片山杜秀(かたやま もりひで)

思想史研究者、音楽評論家。慶應義塾大学法学部教授。2008年、『音盤考現学』『音盤博物誌』で吉田秀和賞、サントリー学芸賞を受賞。『クラシックの核心』『ゴジラと日の丸』『近代日本の右翼思想』『未完のファシズム』『見果てぬ日本』『尊皇攘夷』ほか著書多数。

# 2023年4月定期公演のプログラムについて

## 公演企画担当者から

パーヴォ・ヤルヴィがN響の首席指揮者に就任したのは2015年。レパートリーを大幅に拡大し、オーケストラに刺激と活力をもたらした。7年間の任期の終盤はコロナの影響であまり共演できなかったが、これからも彼は名誉指揮者として定期的に登場する。この先長い年月をかけて、成熟した関係が築けることを願う。

### パーヴォ念願の

#### R. シュトラウス《アルプス交響曲》

[Aプログラム]はパーヴォ念願のプログラム。2度までも計画が流れてしまったが、次こそ3度目の正直といきたい。

《アルプス交響曲》は100人以上の奏者を要する巨大管弦楽作品。登山者が困難を乗り越えて頂上に到るも嵐に遭って下山、やがて日没を迎えるという展開は多分に描写的でありながら、主題の使い方やシンメトリーな構成によって、見事に全曲が統一されている。R. シュトラウスはヘッケルフォーンなどの特殊楽器を駆使し、オーケストラ・サウンドの可能性

を押し広げた。N響のダイナミズムを生かした演奏が期待できよう。

バレエ《ヨセフの伝説》は《アルプス交響曲》の前年に初演された。純真な牧童ヨセフと彼を誘惑する夫人の官能的なシーンが、妖しくきらびやかな音楽で描かれる。コンサート用に編まれた〈交響的断章〉は、パーヴォゆかりのシンシナティ響が世界初演し、父ネーメもかつてN響と演奏している。滅多に聴けないこの曲を日本のファンに届けたいと、パーヴォは意気込み十分である。

### 聴き手を楽しませる工夫がぎっしり! 遊び心満点のフランスの小品

[Cプログラム]は打って変わって小編成のフランス音楽。パーヴォの真骨頂は、実はこうしたサイズの曲においてこそ、最大限に発揮されるのではないかと。奏者一人ひとりの主体性を引き出すことが、N響のシェフ時代の大きな目標でもあった。

“小さな交響曲”を意味する《シンフォニエツ

タ)には、シリアスな交響曲に対するアンチテーゼの含意もあるだろう。ルーセルは十二音技法を使いながら、生き生きとして遊び心満点の小品を生み出した。プーランクの作品は、歓喜からメランコリーまで、その表情を刻々と変えていく。重厚な交響曲に引けを取らない密度の濃さだ。

“喜遊曲”とも訳される《ディヴェルティスマン》は、深刻さの対極にある“気晴らしの音楽”だが、上質なエンターテインメントを作るには確かな技術がある。ドタバタ喜劇の付随音楽として書かれたイベールの曲には、聴き手を楽しませるための工夫が詰まっている。曲中には誰もが知っているあの旋律が……。

### 魂の奥底に入り込む シベリウスの最高傑作

[Bプログラム]の《交響曲第4番》はその渋さゆえ、長く正当な評価を得られなかったが、今日ではシベリウスの最高傑作とみなす人も多い。パーヴォもそのひとりで「いつかN響と

演奏したい」と言い続けてきた。終始謎めいたこの曲の魅力にひとたび取りつかれると、そこから離れることは難しい。彼が言う通り「魂の奥底に入り込んでしまう音楽」なのだ。低音による不気味な三全音により、我々はいきなり異界に引きずり込まれる。黄泉の国との境を流れるトゥオネラ川と、そこに浮かぶ白鳥の情景を連想してしまうせいか。

同じ異界でも《フランチェスカ・ダ・リミニ》は、よりストレートな地獄の世界。ダンテの『神曲』に触発されたチャイコフスキーは、悲恋の末に殺されて冥府の嵐に翻弄される男女の魂をドラマティックに描き出した。

ラフマニノフ《パガニーニの主題による狂詩曲》も負けず劣らず、劇的な起伏に富んでいる。マリー・アンジュ・グッチが、20代半ばとは思えない落ち着きぶりとスケールの大ききで、人気の名曲に切り込む。

[西川彰一/NHK交響楽団 芸術主幹]

**A** 4/15 土 6:00pm  
4/16 日 2:00pm

NHKホール

R. シュトラウス / 「ヨセフの伝説」から交響的断章  
R. シュトラウス / アルプス交響曲 作品64

指揮：パーヴォ・ヤルヴィ



**B** 4/26 水 7:00pm  
4/27 木 7:00pm

サントリーホール

シベリウス / 交響曲 第4番 イ短調 作品63  
ラフマニノフ / パガニーニの主題による狂詩曲 作品43\*  
チャイコフスキー / 幻想曲「フランチェスカ・ダ・リミニ」作品32

指揮：パーヴォ・ヤルヴィ  
ピアノ：マリー・アンジュ・グッチ\*



**C** 4/21 金 7:30pm  
4/22 土 2:00pm

NHKホール

ルーセル / 弦楽のためのシンフォニエッタ 作品52  
プーランク / シンフォニエッタ  
イベール / 室内管弦楽のためのディヴェルティスマン  
指揮：パーヴォ・ヤルヴィ





# チケットのご案内(定期公演 2022年9月～2023年6月)

## 1回券

公演ごとにチケットをお買い求めいただけます。料金は公演によって異なります。各公演の情報をご覧ください。

発売開始日	2月	発売中
	4・5・6月	3月1日[水](定期会員先行)／3月5日[日](一般)

※発売予定時期は変更となる場合があります

## 定期会員券

毎回同じ座席をご用意。1回券と比べて1公演あたり10～30%お得です！(割引率は公演や券種によって異なります)

※ A-CプログラムはNHKホール改修工事の終了にともない、今シーズンより会場をNHKホールに戻して開催します

※ A-2とC-2の開演時刻は2:00pm、C-1の開演時刻は7:30pmとさせていただきます。A-1(6:00pm)、B-1、B-2(7:00pm)の開演時刻に変更はございません

発売開始日	年間会員券	販売終了
	シーズン会員券(Autumn / Winter)	販売終了
	シーズン会員券(Spring)	2月14日[火](定期会員先行)／2月17日[金](一般)

## 料金(税込)

券種	S	A	B	C	D	D(ユースチケット)
年間会員券(9回) [A・Bプログラム]	¥65,970 (¥7,330)	¥56,610 (¥6,290)	¥44,010 (¥4,890)	¥35,730 (¥3,970)	¥27,540 (¥3,060)	¥8,100 (¥900)
年間会員券(9回) [Cプログラム]	¥56,610 (¥6,290)	¥49,725 (¥5,525)	¥39,780 (¥4,420)	¥32,130 (¥3,570)	¥24,480 (¥2,720)	¥7,200 (¥800)

券種	S	A	B	C	D	D(ユースチケット)
シーズン会員券(3回) [Aプログラム]	¥23,820 (¥7,940)	¥19,860 (¥6,620)	¥15,570 (¥5,190)	¥12,540 (¥4,180)	¥9,480 (¥3,160)	¥3,300 (¥1,100)
シーズン会員券(3回) [Cプログラム]	¥19,890 (¥6,630)	¥17,520 (¥5,840)	¥14,010 (¥4,670)	¥11,250 (¥3,750)	¥8,550 (¥2,850)	¥3,000 (¥1,000)

※( )内は1公演あたりの単価

## WEBセレクト3+

Autumn(9～11月)、Winter(12～2月)、Spring(4～6月)の各シーズン内の公演(9プログラム18公演)のうち、3公演以上まとめて購入すると、1回券の一般料金より約8%割引いたします。座席・券種は自由にお選びいただけます。

※お取り扱いにはWEBチケットN響のみとなります

※1回券の一般発売日からご利用いただけます

※割引の併用はできません

※定期会員の方は1回券の会員割引(約10%割引)をご利用ください

## ユースチケット

25歳以下の方へのお得なチケットです。1回券と定期会員券(D席)でご利用いただけます。2022-23シーズンからユースチケット1回券は、すべての券種で一般料金から50%以上お得にお買い求めいただけます。料金は各公演の情報をご覧ください。

※ N響ガイドのみの販売となります

※ 25歳以下の証明となるものをご提示いただけます

## お問い合わせ

**N響ガイド | TEL 03-5793-8161**

営業時間: 11:00am～5:00pm

定休日: 土・日・祝日、定期公演Aプログラムの翌月曜日

●主催公演開催日は曜日に関わらず11:00am～開演時刻まで営業

●発売初日の土・日・祝日は11:00am～3:00pmの営業

●感染症予防対策のため電話受付のみの営業

WEBチケットN響(手数料無料) <https://ticket.nhkso.or.jp>

※やむを得ない理由で出演者や曲目等が変更となる場合や、公演が中止となる場合がございます。公演中止の場合をのぞき、チケット代金の払い戻しはいたしません

Please follow us on



# 2022-23定期公演プログラム

2023 04	A	第1980回 4/15(土) 6:00pm 4/16(日) 2:00pm	バーヴォ・ヤルヴィ&N響が大管弦楽で描くアルプスの壮大なパノラマ R. シュトラウス／「ヨセフの伝説」から交響的断章 R. シュトラウス／アルプス交響曲 作品64	一般 ユースチケット S ¥9,800 S ¥4,500 A ¥8,400 A ¥4,000 B ¥6,700 B ¥3,300 C ¥5,400 C ¥2,500 D ¥4,400 D ¥1,800 E ¥2,800 E ¥1,400
		NHKホール	指揮:バーヴォ・ヤルヴィ	
	B	第1982回 4/26(水) 7:00pm 4/27(木) 7:00pm	シベリウス、ラフマニノフ、チャイコフスキー バーヴォ・ヤルヴィの十八番でその至芸を聴く シベリウス／交響曲 第4番 イ短調 作品63 ラフマニノフ／バガニエーニの主題による狂詩曲 作品43* チャイコフスキー／幻想曲「フランチェスカ・ダ・リミニ」作品32	一般 ユースチケット S ¥9,800 S ¥4,500 A ¥8,400 A ¥4,000 B ¥6,700 B ¥3,300 C ¥5,400 C ¥2,500 D ¥4,400 D ¥1,800
C	第1981回 4/21(金) 7:30pm 4/22(土) 2:00pm	小粒でもピリリと辛い! バーヴォ・ヤルヴィが贈るお洒落で小粋なフランス作品集 ルーセル／弦楽のためのシンフォニエッタ 作品52 プーランク／シンフォニエッタ イベール／室内管弦楽のためのディヴェルティスマン	一般 ユースチケット S ¥7,400 S ¥3,500 A ¥6,500 A ¥3,000 B ¥5,200 B ¥2,400 C ¥4,200 C ¥1,900 D ¥3,200 D ¥1,400 E ¥1,600 E ¥800	
2023 05	A	第1983回 5/13(土) 6:00pm 5/14(日) 2:00pm	下野竜也が見つめる“祈り”と“奇跡”そしてライフワークのドヴォルザーク ラフマニノフ／歌曲集 作品34 —「ラザロのよみがえり」(下野竜也編)、「ヴォカリーズ」 グバイドゥーリナ／オッフエルトリウム* ドヴォルザーク／交響曲 第7番 二短調 作品70	一般 ユースチケット S ¥8,900 S ¥4,000 A ¥7,400 A ¥3,500 B ¥5,800 B ¥2,800 C ¥4,700 C ¥2,100 D ¥3,700 D ¥1,500 E ¥2,000 E ¥1,000
		NHKホール	指揮:下野竜也 ヴァイオリン:バイバ・スクリデ*	
	B	第1985回 5/24(水) 7:00pm 5/25(木) 7:00pm	新緑の季節 清々しいホルンの響きとルイーザが誘う「田園」 ハイドン／交響曲 第82番 八長調 Hob. I-82「くま」 モーツァルト／ホルン協奏曲 第3番 変ホ長調 K. 447 ベートーヴェン／交響曲 第6番 へ長調 作品68「田園」	一般 ユースチケット S ¥9,800 S ¥4,000 A ¥8,400 A ¥4,000 B ¥6,700 B ¥3,300 C ¥5,400 C ¥2,500 D ¥4,400 D ¥1,800
C	第1984回 5/19(金) 7:30pm 5/20(土) 2:00pm	19世紀末のフランスを象徴する交響楽の名品をルイーザの指揮で聴く サン・サンサーンス／ピアノ協奏曲 第5番 へ長調 作品103「エジプト風」 プーランク／交響曲 二短調	一般 ユースチケット S ¥7,400 S ¥3,500 A ¥6,500 A ¥3,000 B ¥5,200 B ¥2,400 C ¥4,200 C ¥1,900 D ¥3,200 D ¥1,400 E ¥1,600 E ¥800	
2023 06	A	第1986回 6/10(土) 6:00pm 6/11(日) 2:00pm	“カゼッラ・リバイバル”の仕掛人ノセダが贈る傑作歌劇のエッセンス プロコフィエフ／交響組曲「3つのオレンジへの恋」作品33bis プロコフィエフ／ピアノ協奏曲 第2番 短調 作品16 カゼッラ／歌劇「蛇女」からの交響的断章[日本初演]	一般 ユースチケット S ¥8,900 S ¥4,000 A ¥7,400 A ¥3,500 B ¥5,800 B ¥2,800 C ¥4,700 C ¥2,100 D ¥3,700 D ¥1,500 E ¥2,000 E ¥1,000
		NHKホール	指揮:ジャンンドレア・ノセダ ピアノ:ベフゾド・アブドゥライモフ* ★当初発表の出演者から変更となりました。	
	B	第1988回 6/21(水) 7:00pm 6/22(木) 7:00pm	ノセダがメモリアルイヤーに問うラフマニノフ初期作の真価 パッサハ(レスピーギ編)／3つのコラル レスピーギ／グレゴリオ風協奏曲* ラフマニノフ／交響曲 第1番 二短調 作品13	一般 ユースチケット S ¥8,900 S ¥4,000 A ¥7,400 A ¥3,500 B ¥5,800 B ¥2,800 C ¥4,700 C ¥2,100 D ¥3,700 D ¥1,500
C	第1987回 6/16(金) 7:30pm 6/17(土) 2:00pm	満を持してN響で初披露 ノセダ得意のシオスタコーヴィチ(第8番) シオスタコーヴィチ／交響曲 第8番 八短調 作品65	一般 ユースチケット S ¥7,400 S ¥3,500 A ¥6,500 A ¥3,000 B ¥5,200 B ¥2,400 C ¥4,200 C ¥1,900 D ¥3,200 D ¥1,400 E ¥1,600 E ¥800	
NHKホール	指揮:ジャンンドレア・ノセダ	(料金はすべて税込)		

※今後の状況によっては、出演者や曲目等が変更になる場合や、公演が中止となる場合があります。あらかじめご了承ください。

# 2023-24定期公演プログラム

2023 09	A	第1989回 9/9 <b>土</b> 6:00pm 9/10 <b>日</b> 2:00pm	R. シュトラウス / 交響詩「ティル・オイレンシュピーゲルの愉快ないたずら」作品28 R. シュトラウス / フルレスケ 二短調 * R. シュトラウス / 交響的幻想曲「イタリアから」作品16
		NHKホール	指揮:ファビオ・ルイーゼ ピアノ:マルティン・ヘルムヒェン*
	B	第1991回 9/20 <b>水</b> 7:00pm 9/21 <b>木</b> 7:00pm	モーツァルト / 交響曲 第29番 イ長調 K. 201 モーツァルト / フルート協奏曲 第2番 二長調 K. 314 モーツァルト / 交響曲 第39番 変ホ長調 K. 543
		サントリーホール	指揮:トシ・コブマン フルート:神田寛明
	C	第1990回 9/15 <b>金</b> 7:30pm 9/16 <b>土</b> 2:00pm	ワーグナー(フリーヘル編) / 楽劇「ニーベルングの指環」—オーケストラ・アドベンチャー—
		NHKホール	指揮:ファビオ・ルイーゼ
2023 10	A	第1992回 10/14 <b>土</b> 6:00pm 10/15 <b>日</b> 2:00pm	ブルックナー / 交響曲 第5番 変ロ長調
		NHKホール	指揮:ヘルベルト・ブロムシュテット
	B	第1994回 10/25 <b>水</b> 7:00pm 10/26 <b>木</b> 7:00pm	ベートーヴェン / ピアノ協奏曲 第5番 変ホ長調 作品73「皇帝」 ブラームス / 交響曲 第3番 ヘ長調 作品90
		サントリーホール	指揮:ヘルベルト・ブロムシュテット ピアノ:レイフ・オヴェ・アンズネス
	C	第1993回 10/20 <b>金</b> 7:30pm 10/21 <b>土</b> 2:00pm	ニルゼン / アラジン組曲 作品34 —「祝祭行進曲」「ヒンドゥーの踊り」「イスファハンの市場」「黒人の踊り」 シベリウス / 交響曲 第2番 二長調 作品43
		NHKホール	指揮:ヘルベルト・ブロムシュテット
2023 11	A	第1997回 11/25 <b>土</b> 6:00pm 11/26 <b>日</b> 2:00pm	スヴェリドフ / 小三部作 プロコフィエフ / 歌劇「戦争と平和」—「ワルツ」(第2場) A. ルビンシテイン / 歌劇「悪魔」—「レスギンカ」(第2幕) グリンカ / 歌劇「イワン・スサーニン」—「クラコフ・ヴィアク」 リムスキー・コルサコフ / 歌劇「雪娘」組曲 チャイコフスキー(フェドセーエフ編) / ハレエ組曲「眠りの森の美女」
		NHKホール	指揮:ウラディーミル・フェドセーエフ
	B	第1996回 11/15 <b>水</b> 7:00pm 11/16 <b>木</b> 7:00pm	シベリウス / 交響詩「タピオラ」作品112 ストラヴィンスキー / ヴァイオリン協奏曲 二調 シベリウス / 交響曲 第1番 ホ短調 作品39
		サントリーホール	指揮:ユッカ・ベッカ・サラステ ヴァイオリン:ベッカ・クーシスト
	C	第1995回 11/10 <b>金</b> 7:30pm 11/11 <b>土</b> 2:00pm	バルトーク / ハンガリーの風景 リスト / ハンガリー幻想曲 * コダーイ / 組曲「ハーリ・ヤーノシュ」
		NHKホール	指揮:ゲルゲイ・マダラシュ ピアノ:阪田知樹 *

	A NHKホール 開場5:00pm 開演6:00pm 開場1:00pm 開演2:00pm	B サントリーホール 開場6:20pm 開演7:00pm 開場6:20pm 開演7:00pm	C NHKホール 開場6:30pm 開演7:30pm 開場1:00pm 開演2:00pm
2023 12	A 第2000回 12/16(土) 6:00pm 12/17(日) 2:00pm NHKホール	第2000回定期公演 マーラー／交響曲 第8番 変ホ長調「一千人の交響曲」 指揮:ファビオ・ルイーゼ ソプラノ:エレナ・スティッキーナ、ヴァレンティーナ・ファルカシュ、三宅理恵 アルト:オレシア・ペトロヴァ、カリオーナ・モリソン テノール:ミヒヤエル・シャード バリトン:ルーク・ストリフ バス:デーヴィッド・ステフェンス 合唱:新国立劇場合唱団 児童合唱:NHK東京児童合唱団	
	B 第1999回 12/6(水) 7:00pm 12/7(木) 7:00pm サントリーホール	ハイドン／交響曲 第100番ト長調 Hob.I-100「軍隊」 リスト／ピアノ協奏曲 第1番 変ホ長調 レーガー／モーツァルトの主題による変奏曲とフーガ 作品132 指揮:ファビオ・ルイーゼ ピアノ:アリス・紗良・オット	
	C 第1998回 12/1(金) 7:30pm 12/2(土) 2:00pm NHKホール	フンパーディンク／歌劇「ヘンゼルとグレーテル」前奏曲 ベルリオーズ／幻想交響曲 作品14 指揮:ファビオ・ルイーゼ	
2024 01	A 第2001回 1/13(土) 6:00pm 1/14(日) 2:00pm NHKホール	ビゼー(シチエドリン編)／バレエ音楽「カルメン組曲」 ラヴェル／組曲「マ・メール・ロフ」 ラヴェル／バレエ音楽「ラ・ヴァルス」 指揮:トウガン・ソヒエフ	
	B 第2003回 1/24(水) 7:00pm 1/25(木) 7:00pm サントリーホール	モーツァルト／ヴァイオリンとヴィオラのための協奏交響曲 変ホ長調 K. 364 ベートーヴェン／交響曲 第3番 変ホ長調 作品55「英雄」 指揮:トウガン・ソヒエフ ヴァイオリン:白井 圭 ヴィオラ:村上淳一郎	
	C 第2002回 1/19(金) 7:30pm 1/20(土) 2:00pm NHKホール	リヤードフ／交響詩「キキモラ」作品63 プロコフィエフ(ソヒエフ編)／バレエ組曲「ロメオとジュリエット」 指揮:トウガン・ソヒエフ	
2024 02	A 第2004回 2/3(土) 6:00pm 2/4(日) 2:00pm NHKホール	ヨハン・シュトラウスII世／ポルカ「クラブフェンの森で」作品336 ショスタコーヴィチ／舞台管弦楽のための組曲 第1番 —「行進曲」「リリック・ワルツ」「小さなポルカ」「ワルツ第2番」 ショスタコーヴィチ／交響曲 第13番 変ロ短調 作品113「バビ・ヤール」* 指揮:井上道義 バス:エフゲーニ・スタヴィンスキー* 男声合唱:オルフェイ・ドレンガル男声合唱団*	
	B 第2006回 2/14(水) 7:00pm 2/15(木) 7:00pm サントリーホール	ラヴェル／スペイン狂詩曲 プロコフィエフ／ヴァイオリン協奏曲 第2番ト短調 作品63 ファリャ／バレエ音楽「三角帽子」(全曲)* 指揮:ハバロ・エラス・カサド ヴァイオリン:オーガスティン・ハーデリッヒ ソプラノ:吉田珠代*	
	C 第2005回 2/9(金) 7:30pm 2/10(土) 2:00pm NHKホール	ワーグナー／ジークフリートの牧歌 R. シュトラウス／交響詩「英雄の生涯」作品40 指揮:大植英次	

Cプログラムについて | ・休憩のない、60～80分程度の公演となります。  
 ・N響メンバーによる「開演前の室内楽」を舞台上で開催します(1日目:6:45pm～/2日目:1:15pm～)。

2024 04	A	第2007回 4/13(土) 6:00pm 4/14(日) 2:00pm NHKホール	シューベルト/交響曲 第4番 ハ短調 D.417 ブラームス/交響曲 第1番 ハ短調 作品68 指揮:マレク・ヤノフスキ
	B	第2009回 4/24(水) 7:00pm 4/25(木) 7:00pm サントリーホール	シューマン/歌劇「ゲノヴェーヴァ」序曲 シューマン/チェロ協奏曲 イ短調 作品129 シューマン/交響曲 第2番 ハ長調 作品61 指揮:クリストフ・エッセンバッハ チェロ:キアン・ソルターニ
	C	第2008回 4/19(金) 7:30pm 4/20(土) 2:00pm NHKホール	ブルックナー/交響曲 第7番 ホ長調 指揮:クリストフ・エッセンバッハ
2024 05	A	第2010回 5/11(土) 6:00pm 5/12(日) 2:00pm NHKホール	バンフィリ/戦いを生きる[日本初演] レスピーギ/交響詩「ローマの噴水」 レスピーギ/交響詩「ローマの松」 レスピーギ/交響詩「ローマの祭り」 指揮:ファビオ・ルイージ
	B	第2012回 5/22(水) 7:00pm 5/23(木) 7:00pm サントリーホール	ブラームス/ピアノ協奏曲 第1番 二短調 作品15 ニルゼン/交響曲 第2番 口短調 作品16「4つの気質」 指揮:ファビオ・ルイージ ピアノ:マルドルフ・プフビンダー
	C	第2011回 5/17(金) 7:30pm 5/18(土) 2:00pm NHKホール	メンデルスゾーン/「夏の夜の夢」の音楽—「序曲」「夜想曲」「スケルツォ」「結婚行進曲」 メンデルスゾーン/交響曲 第5番 二長調 作品107「宗教改革」 指揮:ファビオ・ルイージ
2024 06	A	第2013回 6/8(土) 6:00pm 6/9(日) 2:00pm NHKホール	スクリャービン/夢想 作品24 スクリャービン/ピアノ協奏曲 嬰へ短調 作品20 スクリャービン/交響曲 第2番 ハ短調 作品29 指揮:原田慶太楼 ピアノ:反田恭平
	B	第2015回 6/19(水) 7:00pm 6/20(木) 7:00pm サントリーホール	ウェーベルン/パッサカリア 作品1 シェーンベルク/ヴァイオリン協奏曲 作品36 バッハ(ウェーベルン編)/リチェルカータ シューベルト/交響曲 第5番 変ロ長調 D.485 指揮:鈴木優人 ヴァイオリン:イザベル・ファウスト
	C	第2014回 6/14(金) 7:30pm 6/15(土) 2:00pm NHKホール	イベール/寄港地 ラヴェル/左手のためのピアノ協奏曲 ドビュッシー/夜想曲* 指揮:沖澤のどか ピアノ:デニス・コジュヒン 女声合唱:東京混声合唱団*

※曲目・出演者等が変更となる場合があります。あらかじめご了承ください。

※料金、発売日等チケットについての詳細は3月末にホームページ等で発表する予定です。

## 各地の公演

---

### 2/19(日) 3:00pm | NHK交響楽団定期演奏会 (愛知県芸術劇場シリーズ)

---

#### 愛知県芸術劇場 コンサートホール

---

指揮:ヤクブ・フルシャ ピアノ:ピョートル・アンデルシェフスキ\*

ドヴォルザーク/序曲「フス教徒」作品67

シマノフスキ/交響曲 第4番 作品60「協奏交響曲」\*

ブラームス/交響曲 第4番 ホ短調 作品98

主催:愛知県芸術劇場/NHK名古屋放送局 お問い合わせ:愛知県芸術劇場 TEL (052) 211-7552

---

### 2/25(土) 3:30pm | NHK交響楽団演奏会 宮崎公演

---

#### メディキット県民文化センター(宮崎県立芸術劇場) アイザックスターンホール

---

指揮:尾高忠明 ヴァイオリン:辻彩奈

メンデルスゾーン/序曲「フィンガルの洞窟」作品26

ブルッフ/ヴァイオリン協奏曲 第1番 ト短調 作品26

ベートーヴェン/交響曲 第7番 イ長調 作品92

主催:NHK宮崎放送局/NHK交響楽団 お問い合わせ:ハローダイヤル TEL (050) 5542-8600

---

### 2/26(日) 5:00pm | NHK交響楽団演奏会 大分公演

---

#### iichiko総合文化センター iiichiko グランシアタ

---

出演者・曲目は2月25日と同じ

主催:NHK大分放送局/NHK交響楽団 お問い合わせ:ハローダイヤル TEL (050) 5542-8600

---

### 2/27(月) 7:00pm | NHK交響楽団演奏会 熊本公演

---

#### 熊本県立劇場 コンサートホール

---

出演者・曲目は2月25日と同じ

主催:NHK熊本放送局/NHK交響楽団 お問い合わせ:ハローダイヤル TEL (050) 5542-8600

---

### 3/3(金) 7:00pm | NHKスペシャル 映像の世紀コンサート

---

#### Bunkamura オーチャードホール

---

指揮:下野竜也 音楽:ピアノ:加古 隆 ナレーション:山根基世

加古 隆/パリは燃えているか、時の刻印、シネマトグラフ、はるかなる王宮、神のバッサカリア、最後の海戦、未来世紀、大いなるもの東方より、マナーは踊る、狂気の影、黒い霧、ザ・サード・ワールド、睡蓮のアトリエ、愛と憎しみの果てに、アンコール「映像の世紀バタフライエフェクト」一風のリフレイン、グラン・ボヤージュ

主催:エイベックス・クラシックス・インターナショナル株式会社 お問い合わせ:チケットスペース TEL (03) 3234-9999

---

**3/7** **火** **7:00pm** | **2023都民芸術フェスティバル参加公演 オーケストラ・シリーズ No. 54**

---

東京芸術劇場 コンサートホール

---

指揮:梅田俊明 ピアノ:吉川隆弘  
ベートーヴェン/ピアノ協奏曲 第3番 ハ短調 作品37  
ベートーヴェン/交響曲 第3番 変ホ長調 作品55「英雄」  
主催:お問合せ:(公社)日本演奏連盟 TEL (03) 3539-5131

---

---

**3/12** **日** **2:30pm** | **NHK交響楽団 厚木公演**

---

厚木市文化会館 大ホール

---

指揮:ケリリン・ウィルソン ヴァイオリン:HIMARI  
チャイコフスキー/イタリア奇想曲 作品45  
パガニーニ/ヴァイオリン協奏曲 第1番 二長調 作品6  
プロコフィエフ/バレエ「ロメオとジュリエット」組曲 第2番  
主催:(公財)厚木市文化振興財団 お問合せ:厚木市文化会館チケット予約センター TEL (046) 224-9999

---

---

**3/18** **土** **7:00pm** | **NHK交響楽団演奏会 西宮公演**

---

兵庫県立芸術文化センター KOBELCO大ホール

---

指揮:ウラディーミル・フェドセーエフ ピアノ:小山実稚恵  
ラフマニノフ/ピアノ協奏曲 第2番 ハ短調 作品18  
チャイコフスキー/交響曲 第5番 ホ短調 作品64  
主催:NHK神戸放送局/NHK交響楽団 お問合せ:NHK神戸放送局 TEL (078) 252-5000

---

---

**3/19** **日** **3:00pm** | **NHK交響楽団演奏会 和歌山公演**

---

和歌山県民文化会館

---

出演者・曲目は3月18日と同じ  
主催:NHK和歌山放送局/NHK交響楽団/和歌山県/(一財)和歌山県文化振興財団 お問合せ:NHK和歌山放送局 TEL (073) 424-8111

---

---

**3/20** **月** **7:00pm** | **NHK交響楽団演奏会 堺公演**

---

フェニーチェ堺

---

出演者・曲目は3月18日と同じ  
主催:NHK大阪放送局/NHK交響楽団/(公財)堺市文化振興財団 お問合せ:NHK大阪放送局 TEL (06) 6941-0431

---

---

**3/21** **火** **祝** **4:00pm**

呉市制120周年記念事業 呉市文化振興財団設立40周年記念事業  
呉信用金庫ホールネーミングライツパートナー記念事業  
NHK交響楽団 呉公演2023

---

呉信用金庫ホール(呉市文化ホール)

---

出演者・曲目は3月18日と同じ  
主催:(公財)呉市文化振興財団/呉市/中国新聞社 お問合せ:呉信用金庫ホール TEL (0823) 25-7878

---

---

4/6(木) 3:00pm | 東京・春・音楽祭2023 東京春祭ワーグナー・シリーズ vol.14

4/9(日) 3:00pm | 《ニュルンベルクのマイスタージンガー》(演奏会形式／字幕付)

東京文化会館 大ホール

指揮：マレク・ヤノフスキ ハンス・ザックス：エギルス・シリンス  
ファイト・ボーグナー／夜警：アンドレアス・パウアー・カナバス クンツ・フォーゲルゲザンク：木下紀章  
コンラート・ナハティガル：小林啓倫 ジクストウス・ベックメツサー：アドリアン・エレート  
フリッツ・コートナー：ヨーゼフ・ワーグナー バルタザール・ツォルン：大槻孝志 ウルリヒ・アイスリンガー：下村将太  
アウクスティン・モーザー：高梨英次郎 ヘルマン・オルテル：山田大智 ハンス・シュワルツ：金子慧一  
ハンス・フォルツ：後藤春馬 ワルター・フォン・シュトルチング：デイヴィッド・バット・フィリップ  
ダーヴィット：ダニエル・ペーレ エヴァ：ヨハンニ・フォン・オオストラム マグダレーネ：カトリン・ヴンドザム  
合唱：東京オペラシンガーズ

ワーグナー／楽劇《ニュルンベルクのマイスタージンガー》(全3幕) (演奏会形式／字幕付)

主催：東京・春・音楽祭実行委員会 共催：NHK交響楽団 お問い合わせ：東京・春・音楽祭サポートデスク TEL (03) 6221-2016

---

5/3(水) 3:30pm | N響 ゴールデン・クラシック 2023

東京文化会館 大ホール

指揮：秋山和慶 ピアノ：田部京子  
モーツァルト／歌劇「魔笛」序曲  
モーツァルト／ピアノ協奏曲 第27番 変ロ長調 K. 595  
モーツァルト／交響曲 第40番 ト短調 K. 550

主催：MIYAZAWA & Co. お問い合わせ：サンライズプロモーション東京 TEL (0570) 00-3337

---

オーチャード定期

Bunkamura オーチャードホール

---

3/11(土) 3:30pm

出演者・曲目は3月12日と同じ

主催・お問い合わせ：Bunkamura TEL (03) 3477-3244



# NHK交響楽団

首席指揮者：ファビオ・ルイーゼ

名誉音楽監督：シャルル・デュトラ

桂冠名誉指揮者：ヘルベルト・ブロムシュテット

桂冠指揮者：ウラディーミル・アシュケネージ

名誉指揮者：パーヴォ・ヤルヴィ

正指揮者：外山雄三、尾高忠明

コンサートマスター：伊藤亮太郎

ゲスト・コンサートマスター：白井 圭

ゲスト・アシスタント・コンサートマスター：郷古 廉

## 第1ヴァイオリン

青木 調  
宇根京子  
大鹿由希  
○倉富亮太  
後藤 康  
小林玉紀  
高井敏弘  
猶井悠樹  
中村弓子  
降旗貴雄  
○松田拓之  
宮川奈々  
村尾隆人  
○山岸 努  
○横倉礼理  
○横溝耕一

## 第2ヴァイオリン

◎大宮臨太郎  
◎森田昌弘  
木全利行  
齋藤麻衣子  
○嶋田慶子  
○白井 篤  
○田中晶子  
坪井きらら  
丹羽洋輔  
平野一彦  
船木陽子  
俣野賢仁  
○三又治彦  
矢津将也

山田慶一  
横山俊朗  
米田有花

## ヴィオラ

◎佐々木 亮  
◎村上淳一郎  
☆中村翔太郎  
小野 聡  
小島茂隆  
□坂口弦太郎  
谷口真弓  
飛澤浩人  
○中村洋乃理  
松井直之  
三国レイチェル由依  
#御法川雄矢  
○村松 龍  
山田雄司

## チェロ

◎辻本 玲  
◎藤森亮一  
市 寛也  
小島幸法  
三戸正秀  
中 実穂  
○西山健一  
○藤村俊介  
宮坂拓志  
村井 将  
○山内俊輔  
渡邊将子

## コントラバス

◎吉田 秀  
☆市川雅典  
☆西山真二  
稲川永示  
○岡本 潤  
今野 京  
佐川裕昭  
本間達朗  
矢内陽子

## フルート

◎甲斐雅之  
◎神田寛明  
梶川真歩  
菅原 潤  
中村淳二

## オーボエ

◎青山聖樹  
◎吉村結実  
池田昭子  
坪池泉美  
和久井 仁

## クラリネット

◎伊藤 圭  
◎松本健司  
#山根孝司  
和川聖也

## ファゴット

◎宇賀神広宣  
◎水谷上総  
佐藤由起  
菅原恵子  
森田 格

## ホルン

◎今井仁志  
石山直城  
勝俣 泰  
木川博史  
野見山和子

## トランペット

◎菊本和昭  
◎長谷川智之  
安藤友樹  
山本英司

## トロンボーン

◎古賀 光  
◎新田幹男  
池上 亘  
黒金寛行  
吉川武典

## テューバ

池田幸広

## ティンパニ

◎植松 透  
◎久保昌一

## 打楽器

石川達也  
黒田英実  
竹島悟史

## ハーブ

早川りさこ

## ステージ・マネージャー

徳永匡哉  
黒川大亮

## ライブラリアン

沖 あかね  
木村英代

(五十音順、◎首席、☆首席代行、○次席、□次席代行、#インスペクター)

# 特別支援・特別協力・賛助会員

## Corporate Membership

### 特別支援

岩谷産業株式会社	代表取締役社長   間島 寛
三菱地所株式会社	執行役社長   吉田淳一
株式会社 みずほ銀行	頭取   加藤勝彦
公益財団法人 渋谷育英会	理事長   小丸成洋

### 特別協力

BMW ジャパン	代表取締役社長   Christian Wiedmann
全日本空輸株式会社	代表取締役社長   井上慎一
ヤマハ株式会社	代表執行役社長   中田卓也
株式会社 パレスホテル	代表取締役社長   吉原大介

### 賛助会員

・ 常陸宮	・ (株)アドバンストオールエフデザイン 代表取締役   田中 進	・ SMBC日興証券(株) 代表取締役社長   近藤雄一郎
・ (株)アートレイ 代表取締役   小森活美	・ イーソリューションズ(株) 代表取締役   佐々木経世	・ SCSK(株) 代表取締役 執行役員 社長 最高執行責任者 當麻隆昭
・ (株)アイシン 取締役社長   吉田守孝	・ EY新日本有限責任監査法人 理事長   片倉正美	・ (株)NHKアート 代表取締役社長   平田恭佐
・ (株)アインホールディングス 代表取締役社長   大谷喜一	・ (株)井口一世 代表取締役   井口一世	・ (一財)NHK インターナショナル 理事長   黄木紀之
・ 葵設備工事(株) 代表取締役社長   安藤正明	・ 池上通信機(株) 代表取締役社長   清森洋祐	・ NHK 営業サービス(株) 代表取締役社長   山田哲生
・ アサヒグループホールディングス(株) 代表取締役社長兼CEO   勝木敦志	・ 伊東国際特許事務所 所長   伊東忠重	・ (株)NHK エデュケーショナル 代表取締役社長   荒木美弥子
・ (株)朝日工業社 代表取締役社長   高須康有	・ 井村屋グループ(株) 代表取締役会長(CEO)   浅田剛夫	・ (一財)NHK エンジニアリングシステム 理事長   黄木紀之
・ 朝日信用金庫 理事長   伊藤康博	・ (株)インターネットイニシアティブ 代表取締役会長   鈴木幸一	・ (株)NHK エンタープライズ 代表取締役社長   松本浩司
・ 有限責任 あずさ監査法人 理事長   森 俊哉	・ (株)ウイングツー 代表取締役   福田健二	・ (学)NHK 学園 理事長   篠原朋子
・ アットホーム(株) 代表取締役社長   鶴森康史	・ 内 聖美	

- ・(株)NHK グローバルメディアサービス  
代表取締役社長 | 根本拓也
- ・(一財)NHK サービスセンター  
理事長 | 黄木紀之
- ・(株)NHK出版  
代表取締役社長 | 土井成紀
- ・(株)NHK テクノロジーズ  
代表取締役社長 | 野口周一
- ・(株)NHK ビジネスクリエイティブ  
代表取締役社長 | 石原勉
- ・(株)NHK プロモーション  
代表取締役社長 | 有吉伸人
- ・(株)NHK文化センター  
代表取締役社長 | 田中剛志
- ・(一財)NHK放送研修センター  
理事長 | 黄木紀之
- ・(株)NTTドコモ  
代表取締役社長 | 井伊基之
- ・(株)NTTファシリティアーズ  
代表取締役社長 | 松原和彦
- ・ENEOS ホールディングス(株)  
代表取締役社長 社長執行役員  
齊藤 猛
- ・荏原冷熱システム(株)  
代表取締役 | 庄野 道
- ・大崎電気工業(株)  
代表取締役会長 | 渡辺佳英
- ・大塚ホールディングス(株)  
代表取締役社長兼CEO | 樋口達夫
- ・(株)大林組  
代表取締役社長 | 蓮輪賢治
- ・オールニッポンヘリコプター(株)  
代表取締役社長 | 柳川 淳
- ・岡崎耕治
- ・カンオ計算機(株)  
代表取締役社長 | 櫻尾和宏
- ・鹿島建設(株)  
代表取締役社長 | 天野裕正
- ・(株)加藤電気工業所  
代表取締役社長 | 加藤浩章
- ・角川歴彦
- ・(株)金子製作所  
代表取締役 | 金子晴房
- ・カルチャー・エンタテインメント(株)  
代表取締役 社長執行役員 | 中西一雄

- ・(株)関電工  
取締役社長 | 仲摩俊男
- ・(株)かんぼ生命保険  
取締役兼代表執行役社長 | 千田哲也
- ・キッコーマン(株)  
取締役名譽会長 | 茂木友三郎
- ・(株)CURIOUS PRODUCTIONS  
代表取締役 | 黒川幸太郎
- ・(株)教育芸術社  
代表取締役 | 市川かおり
- ・(株)共栄サービス  
代表取締役 | 半田 充
- ・(株)共同通信会館  
代表取締役専務 | 梅野 修
- ・(一社)共同通信社  
社長 | 水谷 亨
- ・キリンホールディングス(株)  
代表取締役社長 | 磯崎功典
- ・キングレコード(株)  
代表取締役社長 | 村上 潔
- ・(学)国立音楽大学  
理事長 | 山田晴彦
- ・黒澤隆史
- ・京王電鉄(株)  
代表取締役社長 社長執行役員  
都村智史
- ・京成電鉄(株)  
代表取締役社長 社長執行役員  
小林敏也
- ・KDDI(株)  
代表取締役社長 | 高橋 誠
- ・京浜急行電鉄(株)  
取締役社長 | 川俣幸宏
- ・(医)社団 恒仁会  
理事長 | 伊藤恒道
- ・(株)コーポレートテレクション  
代表取締役 | 石井光太郎
- ・小林弘侑
- ・佐川印刷(株)  
代表取締役会長 | 木下宗昭
- ・佐藤弘康
- ・サフラン電機(株)  
代表取締役 | 藤崎貴之
- ・(株)サンセイ  
代表取締役 | 富田佳佑

- ・サントリーホールディングス(株)  
代表取締役社長 | 新浪剛史
- ・(株)ジェイ・ウィル・コーポレーション  
代表取締役 | 佐藤雅典
- ・JCOM(株)  
代表取締役社長 | 岩木陽一
- ・(株)シグマクス・ホールディングス  
代表取締役社長 | 富村隆一
- ・(株)ジャパン・アーツ  
代表取締役社長 | 二瓶純一
- ・(株)集英社  
代表取締役社長 | 廣野真一
- ・(株)小学館  
取締役会長 | 相賀昌宏
- ・(株)商工組合中央金庫  
代表取締役社長 | 関根正裕
- ・庄司勇次朗・恵子
- ・ジョンソン・エンド・ジョンソン(株)
- ・(株)白川プロ  
代表取締役 | 白川亜弥
- ・新赤坂クリニック  
院長 | 松木隆史
- ・信越化学工業(株)  
代表取締役社長 | 齊藤恭彦
- ・新菱冷熱工業(株)  
代表取締役社長 | 加賀美 猛
- ・(株)スカパーJSATホールディングス  
代表取締役社長 | 米倉英一
- ・(株)菅原  
代表取締役社長 | 古江訓雄
- ・スズキ(株)  
代表取締役社長 | 鈴木俊宏
- ・住友商事(株)  
代表取締役社長執行役員 CEO  
兵頭誠之
- ・住友電気工業(株)  
社長 | 井上 治
- ・セイコーグループ(株)  
代表取締役会長兼グループCEO  
兼グループCCO | 服部真二
- ・聖徳大学  
学長 | 川並弘純
- ・西武鉄道(株)  
取締役社長 | 喜多村樹美男
- ・関彰商事(株)  
代表取締役会長 | 関 正夫

- ・(株)セノン  
代表取締役 | 稲葉 誠
- ・(株)ソニー・ミュージックエンタテインメント  
代表取締役社長 CEO | 村松俊亮
- ・損害保険ジャパン(株)  
取締役社長 | 白川儀一
- ・第一三共(株)  
代表取締役社長兼 CEO | 眞鍋 淳
- ・第一生命保険(株)  
代表取締役社長 | 稲垣精二
- ・ダイキン工業(株)  
取締役社長 | 十河政則
- ・大成建設(株)  
代表取締役社長 | 相川善郎
- ・大日コーポレーション(株)  
代表取締役社長兼グループCEO  
鈴木忠明
- ・高砂熱学工業(株)  
代表取締役社長 | 小島和人
- ・(株)ダク  
代表取締役 | 福田浩二
- ・(株)竹中工務店  
取締役執行役員社長 | 佐々木正人
- ・田中貴金属工業(株)  
代表取締役社長執行役員  
田中浩一郎
- ・田原 昇
- ・チャンネル銀河(株)  
代表取締役社長 | 林田真由
- ・中央日本土地建物グループ(株)  
代表取締役社長 社長執行役員  
三宅 潔
- ・中外製薬(株)  
代表取締役社長 | 奥田 修
- ・テルウェル東日本(株)  
代表取締役社長 | 谷 誠
- ・(株)電通  
代表取締役社長執行役員 | 樽谷典洋
- ・(株)テンポプリモ  
代表取締役 | 中村聡武
- ・(株)TOKAIホールディングス  
代表取締役社長 | 小栗勝男
- ・東海旅客鉄道(株)  
代表取締役社長 | 金子 慎
- ・東急(株)  
取締役社長 | 高橋和夫

- ・(株)東急文化村  
代表取締役社長 | 中野哲夫
- ・東京海上日動火災保険(株)  
取締役社長 | 広瀬伸一
- ・(株)東京交通会館  
取締役社長 | 興野敦郎
- ・東信地所(株)  
代表取締役 | 堀川利通
- ・東武鉄道(株)  
取締役社長 | 根津嘉澄
- ・桐朋学園大学  
学長 | 辰巳明子
- ・東邦ホールディングス(株)  
代表取締役 | 有働 敦
- ・(株)東北新社  
代表取締役社長 | 小坂恵一
- ・鳥取末広座(株)  
代表取締役社長 | 西川八重子
- ・(-期)凸版印刷三幸会  
代表理事 | 金子眞吾
- ・トヨタ自動車(株)  
代表取締役社長 | 豊田章男
- ・内外施設工業グループホールディングス(株)  
代表取締役社長 | 林 克昌
- ・中銀グループ  
代表 | 渡辺蔵人
- ・中山武之
- ・日鉄興和不動産(株)  
代表取締役社長 | 今泉泰彦
- ・日東紡績(株)  
取締役 代表取締役社長 | 辻 裕一
- ・(株)日本アーティスト  
代表取締役 | 幡野菜穂子
- ・日本ガイシ(株)  
取締役社長 | 小林 茂
- ・(株)日本国際放送  
代表取締役社長 | 高尾 潤
- ・日本運連(株)  
代表取締役社長 | 堀切 智
- ・日本電気(株)  
代表取締役執行役員社長 | 森田隆之
- ・(-期)日本放送協会共済会  
理事長 | 谷弘聡史
- ・日本郵政(株)  
取締役兼代表取締役社長 | 増田寛也

- ・(株)ニフコ  
代表取締役会長 | 山本利行
- ・野田浩一
- ・野村ホールディングス(株)  
代表執行役社長 | 奥田健太郎
- ・パナソニック ホールディングス(株)  
代表取締役 社長執行役員 グループCEO  
楠見雄規
- ・(有)パルフェ  
代表取締役 | 伊藤良彦
- ・東日本電信電話(株)  
代表取締役社長 | 澁谷直樹
- ・(株)日立製作所  
執行役社長 | 小島啓二
- ・(株)フォトロン  
代表取締役 | 瀧水 隆
- ・福田三千男
- ・富士通(株)  
代表取締役社長 | 時田隆仁
- ・富士通フロンテック(株)  
代表取締役社長 | 川上博亨
- ・古川建築音響研究所  
所長 | 古川宣一
- ・(株)朋栄ホールディングス  
代表取締役 | 清原慶三
- ・(株)放送衛星システム  
代表取締役社長 | 角 英夫
- ・(公)放送文化基金  
理事長 | 濱田純一
- ・ホクト(株)  
代表取締役 | 水野雅義
- ・(株)ポケモン  
代表取締役社長 | 石原恒和
- ・前田工織(株)  
代表取締役社長 | 前田尚宏
- ・牧 寛之
- ・丸紅(株)  
代表取締役社長 | 柿木真澄
- ・溝江建設(株)  
代表取締役社長 | 溝江 弘
- ・三井住友海上火災保険(株)  
代表取締役 | 船曳真一郎
- ・(株)三井住友銀行  
頭取 | 高島 誠
- ・三井住友信託銀行(株)  
取締役社長 | 大山一也

- ・三菱商事(株)  
代表取締役社長 | 中西勝也
- ・三菱電機(株)  
執行役社長 | 漆間 啓
- ・(株)緑山スタジオ・シティ  
代表取締役社長 | 難波一弘
- ・三橋産業(株)  
代表取締役会長 | 三橋洋之
- ・三原穂積
- ・(株)ミロク情報サービス  
代表取締役社長 | 是枝周樹
- ・(学)武蔵野音楽学園  
理事長 | 福井直敬
- ・(株)明治  
代表取締役社長 | 松田克也
- ・(株)明電舎  
取締役社長 | 三井田 健
- ・メットライフ生命保険(株)  
取締役 代表執行役 副社長 | 伊地知 剛
- ・(株)目の眼  
代表 | 櫻井 恵
- ・(株)モメンタム ジャパン  
代表取締役社長 | 三溝広志
- ・森ビル(株)  
代表取締役社長 | 辻 慎吾
- ・森平舞台機構(株)  
代表取締役 | 森 健輔
- ・矢下茂雄
- ・山田産業(株)  
代表取締役 | 山田裕幸
- ・(株)山野楽器  
代表取締役社長 | 山野政彦
- ・(株)ヤマハミュージックジャパン  
代表取締役社長 | 押木正人
- ・ユニオンツール(株)  
代表取締役会長 | 片山貴雄
- ・米澤文彦
- ・(株)読売広告社  
代表取締役社長 | 菊地英之
- ・(株)読売旅行  
代表取締役社長 | 坂元 隆
- ・料亭 三長  
代表 | 高橋千善
- ・(株)リブレ  
代表取締役社長 | 鈴木信也
- ・(有)ルナ・エンタープライズ  
代表取締役 | 戸張誠二
- ・ルーム(株)  
代表取締役社長 社長執行役員  
松本 功
- ・YKアクロス(株)  
代表取締役社長 | 中野健次
- ・渡辺敦郎  
  
(五十音順、敬称略)

## NHK交響楽団への ご寄付について

NHK交響楽団は多くの方々の貴重なご寄付に支えられて、積極的な演奏活動を展開しております。定期公演の充実をはじめ、著名な指揮者・演奏家の招聘、意欲あふれる特別演奏会の実現、海外公演の実施など、今後も音楽文化の向上に努めてまいりますので、みなさまのご支援をよろしくお願い申し上げます。

### 「賛助会員」入会のご案内

NHK交響楽団は賛助会員制度を設け、上記の方々にご支援をいただいております。当団の経営基盤を支える大きな柱となっております。会員制度の内容は次の通りです。

■当団は「公益財団法人」として認定されています。

当団は芸術の普及向上を行うことを主目的とする法人として「公益財団法人」の認定を受けているため、当団に対する寄付金は税制上の優遇措置の対象となります。

1. 会費：一口50万円(年間)
2. 期間：入会は随時、年会費をお支払いいただいたときから1年間
3. 入会の特典：『フィルハーモニー』、『年間パンフレット』、『第9』演奏会プログラム等にご芳名を記載させていただきます。

N響主催公演のご鑑賞の機会を設けます。

### 遺贈のご案内

資産の遺贈(遺言による寄付)を希望される方々のご便宜をお図りするために、NHK交響楽団では信託銀行が提案する「遺言信託制度」をご紹介します(三井住友信託銀行と提携)。相続財産目録の作成から遺産分割手続の実施まで、煩雑な相続手続を信託銀行が有償で代行いたします。まずはN響寄付担当係へご相談ください。

お問い合わせ

公益財団法人 NHK交響楽団「寄付担当係」

TEL：03-5793-8120

## 曲目解説執筆者

重川真紀(しげかわ まき)

博士(文学)。専門は19、20世紀のポーランド音楽史、特にカロル・シマノフスキ研究。共訳書に『ショパン全書簡』シリーズ(『1816～1831年:ポーランド時代』『1831～1835年:パリ時代』[上]、『1836～1839年:パリ時代』[下])、おもな論文に「シマノフスキにとっての原始主義——ストラヴィンスキーとの関わりから」など。

沼野雄司(ぬまの ゆうじ)

桐朋学園大学音楽学部教授。博士(音楽学)。おもな研究領域は20世紀から21世紀の音楽。多くの国際学会で研究発表を行うほか、著書に『音楽学への招待』『現代音楽史——闘争しつづける芸術のゆくえ』『エドガー・ヴァレーズ——孤独な射手の肖像』『ファンダメンタルな楽曲

分析入門』『リゲティ、ベリオ、ブーレーズ——前衛の終焉と現代音楽のゆくえ』など。

矢澤孝樹(やざわ たかき)

音楽評論家。水戸芸術館音楽部門に主任学芸員として務め、企画運営に携わった。茨城大学、慶應義塾大学非常勤講師を経て、現在山梨英和大学メイプルカレッジ講師。共著書に『最新盤 名曲名盤500 ベスト・ディスクはこれだ!』『クラシック・レーベルの歩き方』など。音楽専門誌、新聞などへの寄稿も多数。ニューロン製菓(株)代表取締役社長。

(五十音順、敬称略)

## Information

特別コンサートマスター、  
ゲスト・コンサートマスター  
就任

第1コンサートマスターの篠崎史紀は2023年1月をもって退任し、2023年4月、新たに「特別コンサートマスター」に就任いたします。また現在ゲスト・アシスタント・コンサートマスターを務める郷古廉は2023年4月に「ゲスト・コンサートマスター」に就任いたします。

いつでも どこでも、NHKの番組を。

# NHK+



利用登録はこちらから

<https://plus.nhk.jp/info/>

総合・Eテレの番組を

スマホやタブレット・  
パソコン・テレビ<sup>※1</sup>で  
放送から1週間<sup>※2</sup> 何度でも

お楽しみいただけます!

※1 テレビでは見出し番組配信のみ  
※2 地域別の番組の一部は数日2週間配信

メールアドレスとパスワードを入力するだけで  
すぐに見逃し配信をご覧ください

※放送受信規約のある世帯の方が追加のご負担なく利用できるサービスです

アプリで便利に!



スマホやPCでNHKラジオが楽しめる!

## NHK ラジオ らじる★らじる

スマートフォンやパソコンでラジオ第1(R1)・ラジオ第2(R2)・NHK-FMの放送をリアルタイムで聴くことができます。スマートフォンならアプリでもお楽しみいただけます。 <http://www.nhk.or.jp/radio>

放送が終わっても  
楽しめる!

## 聴き逃し

放送終了後1週間 / 聴き逃し対象番組のみ



スマートフォン用アプリはこちらから

# みなさまの声をお聞かせください！

## インターネットアンケートにご協力ください

ご鑑賞いただいた公演のご感想や、N響の活動に対するみなさまのご意見を、ぜひお寄せください。  
ご協力をお願いいたします。

### アクセス方法

STEP

1



スマートフォンで右の  
QRコードを読み取る。  
またはURLを入力  
[https://www.nhkso.or.jp/  
enquete.html](https://www.nhkso.or.jp/enquete.html)



STEP

2



開いたリンク先からアンケートサイトに入る

STEP

3



アンケートに答えて(約5分)、  
「送信」を押して完了！

ほかにもご意見・ご感想がありましたらお寄せください。

定期公演会場の主催者受付にお持ちいただくか、

〒108-0074東京都港区高輪2-16-49 NHK交響楽団 フィルハーモニー編集までお送りください。

ふりがな		年齢	歳
お名前		TEL	

### 個人情報の取り扱いについて

ご提供いただいた個人情報は、必要な場合、ご記入者様への連絡のみに使用し、他の目的に使用いたしません。

# NHK SYMPHONY ORCHESTRA, TOKYO

Chief Conductor: Fabio Luisi

Music Director Emeritus: Charles Dutoit

Honorary Conductor Laureate: Herbert Blomstedt

Conductor Laureate: Vladimir Ashkenazy

Honorary Conductor: Paavo Järvi

Permanent Conductors: Yuzo Toyama, Tadaaki Otaka

Concertmaster: Ryotaro Ito

Guest Concertmaster: Kei Shirai

Guest Assistant Concertmaster: Sunao Goko

## 1st Violins

- Shirabe Aoki  
Kyoko Une  
Yuki Oshika  
○ Ryota Kuratomi  
Ko Goto  
Tamaki Kobayashi  
Toshihiro Takai  
Yuki Naoki  
Yumiko Nakamura  
Takao Furihata  
○ Hiroyuki Matsuda  
Nana Miyagawa  
Ryuto Muraō  
○ Tsutomu Yamagishi  
○ Masamichi Yokoshima  
○ Koichi Yokomizo

## 2nd Violins

- ◎ Rintaro Omiya  
◎ Masahiro Morita  
Toshiyuki Kimata  
Maiko Saito  
○ Keiko Shimada  
○ Atsushi Shirai  
○ Akiko Tanaka  
Kirara Tsuboi  
Yosuke Niwa  
Kazuhiko Hirano  
Yoko Funaki  
Kenji Matano  
○ Haruhiko Mimata  
Masaya Yazu  
Yoshikazu Yamada  
Toshiro Yokoyama  
Yuka Yoneda

## Violas

- ◎ Ryo Sasaki

- ◎ Junichiro Murakami  
☆ Shotaro Nakamura  
Satoshi Ono  
Shigetaka Obata  
□ Gentaro Sakaguchi  
Mayumi Taniguchi  
Hiroto Tobisawa  
○ Hironori Nakamura  
Naoyuki Matsui  
Rachel Yui Mikuni  
# Yuya Minorikawa  
○ Ryo Muramatsu  
Yuji Yamada

## Cellos

- ◎ Rei Tsujimoto  
◎ Ryoichi Fujimori  
Hiroya Ichi  
Yukinori Kobatake  
Masahide Sannohe  
Miho Naka  
○ Ken'ichi Nishiyama  
○ Shunsuke Fujimura  
Hirosi Miyasaka  
Yuki Murai  
○ Shunsuke Yamanouchi  
Masako Watanabe

## Contrabasses

- ◎ Shu Yoshida  
☆ Masanori Ichikawa  
☆ Shinji Nishiyama  
Eiji Inagawa  
○ Jun Okamoto  
Takashi Konno  
Hiroaki Sagawa  
Tatsuro Honma  
Yoko Yanai

## Flutes

- ◎ Masayuki Kai  
◎ Hiroaki Kanda  
Maho Kajikawa  
Jun Sugawara  
Junji Nakamura

## Oboes

- ◎ Satoki Aoyama  
◎ Yumi Yoshimura  
Shoko Ikeda  
Izumi Tsuboike  
Hitoshi Wakui

## Clarinets

- ◎ Kei Ito  
◎ Kenji Matsumoto  
# Takashi Yamane  
Seiya Wakawa

## Bassoons

- ◎ Hironori Ugajin  
◎ Kazusa Mizutani  
Yuki Sato  
Keiko Sugawara  
Itaru Morita

## Horns

- ◎ Hitoshi Imai  
Naoki Ishiyama  
Yasushi Katsumata  
Hirosi Kigawa  
Kazuko Nomiya

## Trumpets

- ◎ Kazuaki Kikumoto

- ◎ Tomoyuki Hasegawa  
Tomoki Ando  
Eiji Yamamoto

## Trombones

- ◎ Hikaru Goga  
◎ Mikio Nitta  
Ko Ikegami  
Hiroyuki Kurogane  
Takenori Yoshikawa

## Tuba

- Yukihiro Ikeda

## Timpani

- ◎ Toru Uematsu  
◎ Shoichi Kubo

## Percussion

- Tatsuya Ishikawa  
Hidemi Kuroda  
Satoshi Takeshima

## Harp

- Risako Hayakawa

## Stage Manager

- Masaya Tokunaga  
Daisuke Kurokawa

## Librarian

- Akane Oki  
Hideyo Kimura

(◎ Principal, ☆ Acting Principal, ○ Vice Principal, □ Acting Vice Principal, # Inspector)



## PROGRAM

A

Concert No.1977

NHK Hall

February

4 (Sat) 6:00pm

5 (Sun) 2:00pm

conductor Tadaaki Otaka

cello Dai Miyata

concertmaster Kei Shirai

**Hisatada Otaka**  
**Cello Concerto A Minor Op. 20**  
[39']

- I Allegro energico, e passionato
- II Lento cantabile, con variazioni
- III Adagio espressivo – Allegro con brio

— intermission (20 minutes) —

**Andrzej Panufnik**  
**Katyń Epitaph** [8']**Witold Lutosławski**  
**Concerto for Orchestra** [28']

- I Intrada: Allegro maestoso
- II Capriccio notturno e arioso: Vivace
- III Passacaglia, toccata e corale:  
Andante con moto – Allegro giusto

- All performance durations are approximate.

## Artist Profiles

**Tadaaki Otaka, conductor**

© Martin Richardson

Tadaaki Otaka was born in 1947, and studied conducting with Hideo Saito at the Toho Gakuen School of Music. After winning 2nd prize at the 2nd Tokyo International Music Competition for Conducting, he became Conductor Trainee of the NHK Symphony Orchestra. His collaboration with the NHK Symphony Orchestra spans half a century since 1971 when he first conducted the orchestra. He has occupied the position of Permanent Conductor of the NHK Symphony Orchestra since 2010 while also serving as Music Director of the Osaka Philharmonic Orchestra since 2018. Other positions he has held include Conductor Laureate of the Tokyo Philharmonic Orchestra, Music Director Emeritus of the Sapporo Symphony Orchestra, Honorary Guest Conductor of the Yomiuri Nippon Symphony Orchestra and Honorary Conductor Laureate of the Kioi Hall Chamber Orchestra, and at the

same time, making guest appearances with major orchestras across Japan. He has, on the other hand, spent many years overseas serving as Chief Conductor of the BBC National Orchestra of Wales in Britain and was honored with the title of Conductor Laureate.

He is also ardently contributing to educating young artists as Professor Emeritus at Tokyo University of the Arts, and since 2021, he has served as the chairman of the jury of the Tokyo International Music Competition for Conducting. His name became known to the wider public for conducting the theme music for many of NHK's Sunday night saga dramas including *Seiten wo Tsuke* telling the story of his great-grandfather Eiichi Shibusawa in 2021.

He is from a musical family, his father, Hisatada Otaka, being a composer and conductor, his mother Misaoko a pianist, and Atsutada, his brother, a composer. Cello Concerto composed by Hisatada Otaka, his father, in 1943 will be performed in this month's concert. The other two works by Polish-born Panufnik and Lutosławski were those he conducted in the May 2008 subscription concerts, and also seem to be memorable works for him.

---

## Dai Miyata, cello



Dai Miyata was born in 1986, and started to learn cello at the age of three. After studying at Toho Gakuen Music High School, and graduating from the Soloist Diploma Course of the Toho Gakuen School of Music with honors, he studied further in Switzerland and Germany, and also under the tutelage of Sumiko Kurata and Frans Helmerson. He won the 74th Music Competition of Japan in 2005 and the 9th Rostropovich Cello

Competition in Paris as the first Japanese winner. He has been working with famed orchestras both at home and abroad.

He first appeared with the NHK Symphony Orchestra in 2013 performing Dvořák Cello Concerto under Junichi Hirokami, since then he has worked with the orchestra four times. This is going to be his first appearance in the orchestra's subscription concert. The Cello Concerto composed by Hisatada Otaka (1911–1951), which he will perform, is the work deeply associated with him as it was given the world premiere performance by Takashi Kurata, his tutor Sumiko Kurata's father. Apart from his concert appearances, he has been working over a wide range of genres including performing music in *Hamlet* stage-directed by Jo Taira, the puppet theatre artist, and a joint-recording of *Travelogue* with guitarist Yasuji Ohagi, and subsequent local tour. His performance with the Mito Chamber Orchestra under the baton of Seiji Ozawa was recorded on video and was shown at the National Art Festival hosted by Japan's Agency for Cultural Affairs.

[Tadaaki Otaka by Kotaro Yamazaki, music critic, Dai Miyata by Takuya Katagiri, music critic]

Hisatada Otaka (1911–1951)

## Cello Concerto A Minor Op. 20

Born in Tokyo, Hisatada Otaka made a significant contribution to Japan's classical music during the first half of the twentieth century. He studied conducting and composition twice in Vienna where he was trained by, above all, Felix Weingartner before making his Japanese debut in 1941 leading the New Symphony Orchestra (currently the NHK Symphony Orchestra, Tokyo). From the following year, Otaka served as the ensemble's chief conductor for a decade.

A wartime piece, the Cello Concerto was written in 1943 and premiered the next year in Tokyo by the composer himself conducting the afore-mentioned orchestra and the country's top cellist Takashi Kurata. This forceful and lyrical work represents Otaka's style deeply influenced by German Romanticism retaining its tonal and formal firmness. The first sonata movement in A minor opens with the orchestra's mighty clunk immediately followed by the cello solo giving the energetic first theme. The tenderer second theme in F major is also first sung by the soloist. The central movement consists of the theme and its five variations brimming with mellifluous melodies. The A-minor finale has a slow expressive introduction succeeded by the main Allegro section in rondo form (A–B–A–C–A). The valiant rondo (recurrent) theme A, again first appearing with the cello solo, is in stark contrast to the dance-like melody B with light footsteps, and to the gently flowing theme C in five-beat time. The coda closes the concerto both vigorously and dramatically.

The audience of today's concert witnesses a precious stage, as the work is conducted by Tadaaki Otaka, the composer's youngest son and internationally active musician who has established close ties with the NHK Symphony Orchestra like his father.

Andrzej Panufnik (1914–1991)

## *Katyń Epitaph*

The Polish-born composer, pianist and conductor Panufnik was at the mercy of times just like his country's hero Chopin was so, a century earlier. The younger man left Poland in the mid-1950s escaping from the communist regime to continue his musical career mainly in the United Kingdom. Incidentally, back in 1930s, Panufnik met Hisatada Otaka in Vienna where the two young musicians, born only three years apart, deepened friendship as the fellow disciples of Weingartner.

Panufnik as a composer left a dense catalogue including ten symphonies and *Katyń Epitaph*. Written in 1967 and revised in 1969, the latter makes us face a tragic historical event we should never forget. Indeed, according to the composer, it is dedicated to “the memory of the 15,000 Polish patriots who were slaughtered” by the Soviet secret service NKVD in Katyn Forest during World War II.

*Katyń Epitaph* evolves slowly with a transparent texture, the emotional tension being only mounting. It begins with the grievous violin solo in a high register taken over by the woodwinds' long passage. Thereafter a crescendo with strings gradually heads for the tutti fortissimo conclusion. This orchestral epitaph is shut by ominous timpani roll as if to denounce the cold-blooded massacrers.

A

4 &amp; 5, FEB, 2023

## Concerto for Orchestra

Lutosławski played a leading role in Poland's modern music scene following the footsteps of Karol Szymanowski (described on p. 45 [Symphony No. 4 Op. 60]) whose music deeply impressed the young Lutosławski even before the latter entered the Warsaw Conservatory in 1927. As for their compatriot Panufnik above mentioned, he was Lutosławski's close friend and piano duet partner.

Lutosławski's early output is marked by folk-inspired, disciplined yet flowing style under the influence of the Hungarian master Bela Bartók (1881–1945). And the junior composer's large-scale Concerto for Orchestra written between 1950 and 1954 is considered the culmination of his early period: from around 1958 on, he would walk a new path taking more avant-garde, experimental approaches.

Although his Concerto for Orchestra has the exact same title as Bartók's masterpiece (1943), here Lutosławski treats materials derived from various Polish folk songs in highly individual, elaborate ways. The reason why the latter embarked upon such monumental work for a large orchestra was a commission from the Polish conductor Witold Rowicki, then the artistic director of the Warsaw Philharmonic. Lutosławski spent as long as four years to complete the work for them who first performed it in Warsaw in 1954.

The initial movement *Intrada (Introduction)* starts with F-sharp drone note underpinning cellos intoning the 9/8-meter main theme which is a traditional tune from Mazovia (the region around Warsaw). This theme is developed in a contrapuntal (polyphonic) way until we hear Stravinsky's *Rite of Spring*-like wild stomping chords. The middle movement is in A–B–A form based on different folk materials. Its outer section A, entitled *Capriccio notturno (Nocturnal Caprice)*, is a hushed scherzo dominated by perpetual motion, while the section B, *Arioso (In the Manner of an Air)*, is a clamorous brass trio. The vast final movement consists of two sections featuring Baroque-related forms sharing the same folk tune: *Passacaglia* is a series of colorful variations on a given bass melody which is here an eight-bar theme introduced by contrabasses at the opening. Following a quietly tense moment, the virtuosic *Toccata* section begins powerfully, then oboes and clarinets would eventually sing a benign *Corale (Chorale)* so the orchestra reaches an impassioned apotheosis.

---

### Kumiko Nishi

English-French-Japanese translator based in the USA. Holds a MA in musicology from the University of Lyon II, France and a BA from the Tokyo University of the Arts (Geidai).

B

Concert No.1979

Suntory Hall

February

15 (Wed) 7:00pm

16 (Thu) 7:00pm

conductor

Jakub Hrůša

piano

Piotr Anderszewski\*

concertmaster

Kei Shirai

**Antonín Dvořák*****Hussite Overture, Op. 67*** [14']**Karol Szymanowski*****Symphony No. 4 Op. 60, Symphonie concertante***\* [25']

I Moderato

II Andante molto sostenuto

III Allegro non troppo,  
ma agitato ed ansioso

— intermission (20 minutes) —

**Johannes Brahms*****Symphony No. 4 E Minor Op. 98***  
[41']

I Allegro non troppo

II Andante moderato

III Allegro giocoso

IV Allegro energico e passionato

- All performance durations are approximate.

B

15 &amp; 16, FEB. 2023

**Artist Profiles****Jakub Hrůša, conductor**

© Andreas Herzau

Jakub Hrůša has been continuing to expand his career of conducting both orchestral concerts and operatic works by approaching music with a sincere attitude and skillful and passionate conducting. His term as Chief Conductor of the Bamberger Symphoniker has been extended until 2026, while in Britain, his assuming the post of Music Director of the Royal Opera House Covent Garden from the 2025 season has been announced. In the summer of 2022, he conducted *Katja Kabanova*, an opera by Janáček, at the Salzburg Festival.

He was born in 1981 in Brno, the central city of Moravia, in the Czech Republic, and studied under Jiří Bělohlávek at the Academy of Performing Arts in Prague, and continued further studies with Radomir Eliška. His first visit to Japan was in 2006, and in 2010, he conducted *Má*

*Vlast (My Fatherland)* at the opening concert of the Prague Spring International Music Festival, and in the same year, he was appointed Chief Guest Conductor of the Tokyo Metropolitan Symphony Orchestra, the post he continued to serve until 2018. He was received warmly when he guest-conducted the Royal Concertgebouw Orchestra in Amsterdam, and also for Janáček's *Makropulos Affair* at the Wiener Staatsoper.

He made his subscription concert debut with the Berliner Philharmoniker in 2018 and with the Wiener Philharmoniker in 2019, and also has a strong bond with North American orchestras.

He is currently Chief Conductor of the Bamberger Symphoniker, Chief Guest Conductor of the Czech Philharmonic and L'Orchestra dell'Accademia Nazionale di Santa Cecilia in Rome. He has an extensive discography, and in 2022, his recording of Symphony No.1 by Hans Rott, a genius composer who died young, was released.

His first appearance with the NHK Symphony Orchestra was in 2019 when he conducted the April subscription program A.

---

## Piotr Anderszewski, piano



Piotr Anderszewski was born in Warsaw in 1969 to a Polish father and a Hungarian mother. Despite his withdrawal from the 1990 Leeds International Piano Competition, Beethoven's *Diabelli Variations* he played in the semi-finals drew attention, and eventually he made his professional debut by having a recital at London's Wigmore Hall in February in the following year. He has frequently visited Japan, and in his last visit in 2021, he broke new ground by playing works from his album of Bach's *Well-Tempered Clavier, Book 2 (Selection)*, which he recorded prior to his visit. He always takes a cautious stance for his repertoire thus concentrating on limited works by composers including Bach, Mozart, Beethoven, Webern, Chopin, Schumann, Janáček, and Bartók. Having a self-proclaimed "ambiguous existence with various contradictions," he has become particularly deeply attached to Szymanowski, a Polish genius, and in 2004 he recorded some of the composer's works including Piano Sonata No. 3, which brought him the British Gramophone Award.

*The Symphonie Concertante* he will perform on this visit is the work he most ardently cherishes. He performed it with the orchestra back in 2006 under the baton of Charles Dutoit and this time he will shed a fresh light on the work together with Jakub Hruša. He last appeared in 2015, and this is his 3rd collaboration with the NHK Symphony Orchestra.

[Jakub Hruša by Yoshimichi Okuda, music critic, Piotr Anderszewski by Takaakira Aosawa, music critic]

**Antonín Dvořák (1841–1904)*****Hussite Overture, Op. 67***

The Czech composer Dvořák had a turning point in 1875 receiving a grant from the Austrian government. His talent was soon spotted by a part of the jury, Johannes Brahms, who helped in spreading Dvořák's fame in the late 1870s.

During the early 1880s, the now-up-and-coming Dvořák penned some patriotic works including the *Hussite Overture*, coupled with rising Czech nationalism of the period. It was initially composed for a theatrical trilogy on Jan Hus and his followers called Hussites. As the project collapsed, only Dvořák's Overture was revealed at the 1883 opening event of the rebuilt Prague National Theater. The Bohemian theologian Hus is a precursor of Protestant Reformers. After he was executed in 1415 for heresy, the Hussites resisted Catholic crusades for over a decade, which is known as the Hussite (or Bohemian) Wars. Dvořák quotes two renowned tunes at the introduction of the Overture: the heroic melody from the Hussite hymn *You're God's Warriors*, and the lyrical melody from the church hymn *St. Wenceslas Chorale* (Wenceslas is the Catholic saint and Czech nation's saint patron). The two themes come into collision during the main section, however, Dvořák, both patriot and devout catholic, reconciles them at the festive conclusion.

**Karol Szymanowski (1882–1937)*****Symphony No. 4 Op. 60, Symphonie concertante***

Like Stravinsky (1882–1971) dubbed “Chameleon,” Szymanowski changed styles with the times. Born to a Polish noble family in Ukraine and mainly trained in Warsaw, the latter was first influenced by Chopin and Scriabin but also German Romantics such as Brahms, Wagner and R. Strauss. Though Szymanowski's middle period showed effects of French Impressionism and Stravinsky, the Polish composer later inclined towards neo-classicism into which he injected his own modern sense.

Dating from this final phase, Op. 60 is Szymanowski's last symphony and his only piano concerto. He wrote it in 1932 for himself to play the solo part, as he was in financial need since he left the post of director of the Warsaw Conservatory. The 1932 premiere took place successfully in Poznań, Poland with him as soloist who then toured in Europe reperforming it.

As the subtitle indicates, this work is a mixture of two classical genres. It is a three-movement concerto with cadenzas (pianist's virtuosic solo without orchestra), but the soloist is often merged in the colorful symphonic orchestra rather than being merely accompanied by it. Although the initial free-sonata movement constantly changes meters, it sounds flowing smoothly. It opens with the wavelike weightless first theme given by the pianist's both hands in unison over strings' pizzicato. This main theme would be recalled by flute solo and then piano towards the end of the nocturnal second movement. After its brief cadenza, the rhythmical third movement follows without pause, where the bouncing recurrent theme with repeated notes first appears in the piano's low register. This finale's lively sections are reminiscent of oberek, a triple-meter Polish folk dance with quick steps and turns.

## Symphony No. 4 E Minor Op. 98

In Brahms' lifetime, the Viennese musical world was split into two camps: simply put, the conservatives worshipping his classicism against the progressives adoring the "future music" of Wagner (1813–1883). However, Brahms' approaches, seemingly traditional and archaic, were in all truth innovative and forward-looking to influence younger composers such as the modernist Schönberg (1874–1951) who wrote the essay "Brahms the Progressive."

While the "classical" symphony as genre was on its last legs after Beethoven (and Schubert), Brahms in the Romantic era gave his four answers all different to it. With the Fourth completed in 1885 when he was 52, he looks back at the past the most – the Baroque era and even earlier time – adopting the Beethovenian classical four-movement form. Interestingly, the Fourth has the unhappiest ending among all his symphonies, starting and culminating in a minor key against the example set by Beethoven whose Fifth (*Destiny*) attains, through minor darkness, the victorious major denouement.

The sonata movement in E minor – a main tonality rarely chosen for symphonies in general – begins Brahms' Fourth. He minutely builds out the whole movement of the opening descending two-note motif, no exception being the intermittent "heavily sighing" first theme given by violins at the start. Cellos and horns reveal the second theme over staccato accompaniment which has often been likened to the tango. The next slow movement starts solemnly with the horns' melody in a medieval church mode. The gusty third movement is the first scherzo Brahms wrote for the genre of symphony following Beethoven, however, here Brahms surprises us doubly with his "duple-time" scherzo in "sonata form." The finale is a colossal passacaglia, a form typical of the Baroque era of continuous variation on a given theme (usually a bass line). At the outset, the winds announces in a high range the eight-chord theme which is said to be inspired by Bach's Cantata BWV150 *For Thee, O Lord, I long*. Thereafter come thirty-two variations and a coda where Brahms' masterly symphony ceases on a fervent E-minor chord.

Kumiko Nishi

For a profile of Kumiko Nishi, see p. 42



## PROGRAM

C

Concert No.1978

NHK Hall

February

10 (Fri) 7:30pm

11 (Sat) 2:00pm

conductor

Jakub Hrůša | for a profile of Jakub Hrůša, see p. 43

concertmaster

Sunao Goko

[Pre-concert Chamber Music – Exclusive to Program C]

Friday 10th from 6:45pm / Saturday 11th from 1:15pm

Hiroyuki Matsuda (vn.), Nana Miyagawa (vn.), Hironori Nakamura (va.), Satoshi Ono (va.), Masako Watanabe (vc.), Yukinori Kobatake (vc.)

Tchaikovsky / String Sextet D Minor Op. 70 *Souvenir de Florence*—1st Movement

\* You may enter and leave as you please during the performance. \* Enjoy chamber music from your own seat.

## Leonard Bernstein Symphonic Dances from *West Side Story* [24']

- I Prologue
- II Somewhere
- III Scherzo
- IV Mambo
- V Cha-cha
- VI Meeting Scene
- VII Cool Fugue
- VIII Rumble
- IX Finale

## Sergei Rakhmaninov Symphonic Dances Op. 45 [35']

- I Non allegro
- II Andante con moto (Tempo di Valse)
- III Lento assai – Allegro vivace

- This concert will be performed with no intermission.
- All performance durations are approximate.

Program Notes | Kumiko Nishi

Leonard Bernstein (1918–1990)

## Symphonic Dances from *West Side Story*

In the 20th-century American music scene, there was no one else with as much charisma and versatility as Bernstein, who was the world's leading composer-conductor-pianist. He was also a dedicated educator and a national TV icon.

Premiered in 1957, *West Side Story* is one of the composer's best-known works and the biggest Broadway musical hit in history. Retelling Shakespeare's *Romeo and Juliet*, it is a tragic

love story set in modern New York featuring Tony (ex-member of the youth gang, the “Jets”) and Maria (sister of the leader of the “Sharks” gang). A great example of Bernstein’s musical open-mindedness, his score embraces jazz and Latin music, contains varying rhythms and meters, and makes full use of a multicolored powerful orchestra with a large variety of percussion.

From this score full of immortal tuneful melodies, Bernstein prepared the orchestral suite *Symphonic Dances* in 1960. Performed without pause, these nine numbers are laid out regardless of the plot. The jazzy *Prologue*, enlivened by finger clapping and ended with a police whistle, depicts the antagonism between the two gangs. The dreamy *Somewhere* is to be recalled during *Finale*. Central two Latin dances, electrifying *Mambo* and calm *Cha-cha*, are from the musical’s dance scene at a gym where Tony and Maria first meet and dance together. *Finale* pictures the sorrowful, eternal farewell of the star-crossed couple: Maria kisses dead Tony, and his body is carried by both gangs like a funeral procession.

## Sergei Rakhmaninov (1873–1943)

---

### Symphonic Dances Op. 45

*Symphonic Dances*, penned in 1940 in the USA, is Rakhmaninov’s swan song. Upon completion of it, he foretold that it was presumably his “last sparkle” as he had no energy and fire left in him. And it became a reality when he passed away in California in 1943, a quarter of a century after he bid forever farewell to his beloved motherland ruled by the Soviets.

Although the work was premiered in 1941 as a pure instrumental piece, the Russian composer seemed likely to intend these “Dances” to be real dances with the help of his compatriot Michel Fokine. This legendary dancer and choreographer had created a successful ballet in 1939 using Rakhmaninov’s *Rhapsody on a Theme of Paganini*, however this time the idea didn’t come true as Fokine died in 1942.

Rakhmaninov had initially given the three movements of *Symphonic Dances* the descriptive or possibly figurative titles *Midday*, *Twilight* and *Midnight* that he retracted before the premiere. The first C-minor Dance is in ternary form. Its middle section lets the alto saxophone sing a pensive tune which is known as the first melody Rakhmaninov wrote for the instrument in his life. The coda abruptly cites his *Symphony No. 1* (1895) of which the first performance ended in fiasco. The next slower Dance is an eerie, even macabre waltz. The third Dance has a dismal introduction followed by the powerful main section in ternary form. After the two primary themes are heard, Rakhmaninov brings the mortality to mind, making the orchestra repeat the *Dies Irae* (*Day of Wrath*) melody from the Catholic Mass for the Dead. He had obsessively quoted this sinister melody in several of his previous works including the above-mentioned *Paganini Rhapsody*. Then immediately before the coda, he revisits his own choral composition *All-Night Vigil* (1915) evoking the Resurrection. This final Dance’s conclusion is in a state of extreme excitement to end the composer’s quasi-autobiographical, quasi-testamentary music.

---

Kumiko Nishi

For a profile of Kumiko Nishi, see p. 42

# The Subscription Concerts Program 2022–23

2023 04	A	Concert No. <b>1980</b>	<b>R. Strauss</b> Symphonic Fragments from <i>Josephs Legende</i> <b>R. Strauss</b> <i>An Alpine Symphony</i> Op. 64	Ordinary Youth S 9,800 S 4,500 A 8,400 A 4,000 B 6,700 B 3,300 C 5,400 C 2,500 D 4,400 D 1,800 E 2,800 E 1,400
		<b>April</b> 15 (Sat) 6:00pm 16 (Sun) 2:00pm	Paavo Järvi, conductor	
		NHK Hall		
2023 04	B	Concert No. <b>1982</b>	<b>Sibelius</b> Symphony No. 4 A Minor Op. 63 <b>Rakhmaninov</b> Rhapsody on a Theme of Paganini Op. 43* <b>Tchaikovsky</b> <i>Francesca da Rimini</i> , Symphonic fantasy after Dante, Op. 32	Ordinary Youth S 9,800 S 4,500 A 8,400 A 4,000 B 6,700 B 3,300 C 5,400 C 2,500 D 4,400 D 1,800
		<b>April</b> 26 (Wed) 7:00pm 27 (Thu) 7:00pm	Paavo Järvi, conductor Marie-Ange Nguci, piano*	
		Suntory Hall		
2023 04	C	Concert No. <b>1981</b>	<b>Roussel</b> Sinfonietta for String Orchestra Op. 52 <b>Poulenc</b> Sinfonietta <b>Ibert</b> <i>Divertissement</i> for Chamber Orchestra	Ordinary Youth S 7,400 S 3,500 A 6,500 A 3,000 B 5,200 B 2,400 C 4,200 C 1,900 D 3,200 D 1,400 E 1,600 E 800
		<b>April</b> 21 (Fri) 7:30pm 22 (Sat) 2:00pm	Paavo Järvi, conductor	
		NHK Hall		
2023 05	A	Concert No. <b>1983</b>	<b>Rakhmaninov</b> Songs Op. 34 – <i>The Raising of Lazarus</i> (arr. Shimono), <i>Vocalise</i> <b>Gubaidulina</b> <i>Offertorium</i> * <b>Dvořák</b> Symphony No. 7 D Minor Op. 70	Ordinary Youth S 8,900 S 4,000 A 7,400 A 3,500 B 5,800 B 2,800 C 4,700 C 2,100 D 3,700 D 1,500 E 2,000 E 1,000
		<b>May</b> 13 (Sat) 6:00pm 14 (Sun) 2:00pm	Tatsuya Shimono, conductor Baiba Skride, violin*	
		NHK Hall		
2023 05	B	Concert No. <b>1985</b>	<b>Haydn</b> Symphony No. 82 C Major Hob. I-82, <i>The Bear</i> <b>Mozart</b> Horn Concerto No. 3 E-flat Major K. 447 <b>Beethoven</b> Symphony No. 6 F Major Op. 68, <i>Pastoral</i>	Ordinary Youth S 9,800 S 4,500 A 8,400 A 4,000 B 6,700 B 3,300 C 5,400 C 2,500 D 4,400 D 1,800
		<b>May</b> 24 (Wed) 7:00pm 25 (Thu) 7:00pm	Fabio Luisi, conductor Nobuaki Fukukawa, horn	
		Suntory Hall		
2023 05	C	Concert No. <b>1984</b>	<b>Saint-Saëns</b> Piano Concerto No. 5 F Major Op. 103, <i>The Egyptian</i> <b>Franck</b> Symphony D Minor	Ordinary Youth S 7,400 S 3,500 A 6,500 A 3,000 B 5,200 B 2,400 C 4,200 C 1,900 D 3,200 D 1,400 E 1,600 E 800
		<b>May</b> 19 (Fri) 7:30pm 20 (Sat) 2:00pm	Fabio Luisi, conductor Pascal Rogé, piano	
		NHK Hall		
2023 06	A	Concert No. <b>1986</b>	<b>Prokofiev</b> <i>The Love for Three Oranges</i> Op. 33bis, symphonic suite <b>Prokofiev</b> Piano Concerto No. 2 G Minor Op. 16 <b>Casella</b> Symphonic Fragments from <i>La donna serpente</i> [Japan Première]	Ordinary Youth S 8,900 S 4,000 A 7,400 A 3,500 B 5,800 B 2,800 C 4,700 C 2,100 D 3,700 D 1,500 E 2,000 E 1,000
		<b>June</b> 10 (Sat) 6:00pm 11 (Sun) 2:00pm	Gianandrea Noseda, conductor Behzod Abduraimov, piano* *Changed from initially scheduled.	
		NHK Hall		
2023 06	B	Concert No. <b>1988</b>	<b>Bach / Respighi</b> <i>Three Chorales</i> <b>Respighi</b> <i>Concerto gregoriano</i> * <b>Rakhmaninov</b> Symphony No. 1 D Minor Op. 13	Ordinary Youth S 8,900 S 4,000 A 7,400 A 3,500 B 5,800 B 2,800 C 4,700 C 2,100 D 3,700 D 1,500
		<b>June</b> 21 (Wed) 7:00pm 22 (Thu) 7:00pm	Gianandrea Noseda, conductor Sayaka Shoji, violin*	
		Suntory Hall		
2023 06	C	Concert No. <b>1987</b>	<b>Shostakovich</b> Symphony No. 8 C Minor Op. 65	Ordinary Youth S 7,400 S 3,500 A 6,500 A 3,000 B 5,200 B 2,400 C 4,200 C 1,900 D 3,200 D 1,400 E 1,600 E 800
		<b>June</b> 16 (Fri) 7:30pm 17 (Sat) 2:00pm	Gianandrea Noseda, conductor	
		NHK Hall		

(consumption tax included)

All performers and programs are subject to change or cancellation depending on the circumstances.

# The Subscription Concerts Program 2023–24

2023  
09

A

Concert No. 1989

September

9 (Sat) 6:00pm  
10 (Sun) 2:00pm

NHK Hall

**R. Strauss** *Till Eulenspiegels lustige Streiche*, symphonic poem Op. 28

(*Till Eulenspiegel's Merry Pranks*)

**R. Strauss** *Burleske*, D Minor\*

**R. Strauss** *Aus Italien*, symphonic fantasy Op. 16 (*From Italy*)

Fabio Luisi, conductor

Martin Helmchen, piano\*

B

Concert No. 1991

September

20 (Wed) 7:00pm  
21 (Thu) 7:00pm

Suntory Hall

**Mozart** Symphony No. 29 A Major K. 201

**Mozart** Flute Concerto No. 2 D Major K. 314

**Mozart** Symphony No. 39 E-flat Major K. 543

Ton Koopman, conductor

Hiroaki Kanda, flute

C

Concert No. 1990

September

15 (Fri) 7:30pm  
16 (Sat) 2:00pm

NHK Hall

**Wagner (Vlieger)** *The Ring, An Orchestral Adventure*

Fabio Luisi, conductor

2023  
10

A

Concert No. 1992

October

14 (Sat) 6:00pm  
15 (Sun) 2:00pm

NHK Hall

**Bruckner** Symphony No. 5 B-flat Major

Herbert Blomstedt, conductor

B

Concert No. 1994

October

25 (Wed) 7:00pm  
26 (Thu) 7:00pm

Suntory Hall

**Beethoven** Piano Concerto No. 5 E-flat Major Op. 73, *Emperor*

**Brahms** Symphony No. 3 F Major Op. 90

Herbert Blomstedt, conductor

Leif Ove Andsnes, piano

C

Concert No. 1993

October

20 (Fri) 7:30pm  
21 (Sat) 2:00pm

NHK Hall

**Nielsen** *Aladdin*, suite Op. 34—*Oriental Festive March, Hindu Dance,*

*The Market Place in Ispahan, Negro Dance*

**Sibelius** Symphony No. 2 D Major Op. 43

Herbert Blomstedt, conductor

2023  
11

A

Concert No. 1997

November

25 (Sat) 6:00pm  
26 (Sun) 2:00pm

NHK Hall

**Sviridov** *Small Triptych*

**Prokofiev** *War and Peace*, opera Op. 91—*Waltz* in scene 2

**Anton Rubinstein** *The Demon*, opera—*Lesginka* in scene 2

**Glinka** *Ivan Sussanin*, opera—*Krakowiak*

**Rimsky-Korsakov** *Snow Maiden*, suite

**Tchaikovsky (Fedoseyev)** *The Sleeping Beauty*, ballet suite

Vladimir Fedoseyev, conductor

B

Concert No. 1996

November

15 (Wed) 7:00pm  
16 (Thu) 7:00pm

Suntory Hall

**Sibelius** *Tapiola*, symphonic poem Op. 112

**Stravinsky** Violin Concerto in D

**Sibelius** Symphony No. 1 E Minor Op. 39

Jukka-Pekka Saraste, conductor

Pekka Kuusisto, violin

C

Concert No. 1995

November

10 (Fri) 7:30pm  
11 (Sat) 2:00pm

NHK Hall

**Bartók** *Hungarian Pictures*

**Liszt** *Hungarian Fantasy*\*

**Kodály** *Háry János*, suite

Gergely Madaras, conductor

Tomoki Sakata, piano\*

**A** **NHK Hall**  
Sat. 6:00pm (doors open at 5:00pm)  
Sun. 2:00pm (doors open at 1:00pm)

**B** **Suntory Hall**  
Wed. 7:00pm (doors open at 6:20pm)  
Thu. 7:00pm (doors open at 6:20pm)

**C** **NHK Hall**  
Fri. 7:30pm (doors open at 6:30pm)  
Sat. 2:00pm (doors open at 1:00pm)

2023  
12

**A** Concert No. **2000**  
**December**  
**16** (Sat) 6:00pm  
**17** (Sun) 2:00pm  
NHK Hall

The 2000th Subscription Concerts  
**Mahler** *Symphony No. 8 E-flat Major, Symphonie der Tausend (Symphony of Thousand)*  
Fabio Luisi, conductor Elena Stikhina, Valentina Farcas, Rie Miyake, sopranos  
Olesya Petrova, Catriona Morison, altos Michael Schade, tenor  
Luke Sutliff, baritone David Steffens, bass  
New National Theatre Chorus, chorus NHK Tokyo Children Chorus, children chorus

**B** Concert No. **1999**  
**December**  
**6** (Wed) 7:00pm  
**7** (Thu) 7:00pm  
Suntory Hall

**Haydn** *Symphony No. 100 G Major Hob. I-100, Military*  
**Liszt** *Piano Concerto No. 1 E-flat Major*  
**Reger** *Variations and Fugue on a Theme by Mozart Op. 132*  
Fabio Luisi, conductor  
Alice-Sara Ott, piano

**C** Concert No. **1998**  
**December**  
**1** (Fri) 7:30pm  
**2** (Sat) 2:00pm  
NHK Hall

**Humperdinck** *Hansel und Gretel, opera—Prelude (Hansel and Gretel)*  
**Berlioz** *Symphonie fantastique, Op. 14 (Fantastical Symphony)*  
Fabio Luisi, conductor

2024  
01

**A** Concert No. **2001**  
**January**  
**13** (Sat) 6:00pm  
**14** (Sun) 2:00pm  
NHK Hall

**Bizet (Shchedrin)** *Carmen Suite*, ballet  
**Ravel** *Ma mère l'Oye, suite (Mother Goose)*  
**Ravel** *La valse*, ballet  
Tugan Sokhiev, conductor

**B** Concert No. **2003**  
**January**  
**24** (Wed) 7:00pm  
**25** (Thu) 7:00pm  
Suntory Hall

**Mozart** *Sinfonia Concertante for Violin and Viola E-flat Major K. 364*  
**Beethoven** *Symphony No. 3 E-flat Major Op. 55, Eroica (Heroic Symphony)*  
Tugan Sokhiev, conductor  
Kei Shirai, violin  
Junichiro Murakami, viola

**C** Concert No. **2002**  
**January**  
**19** (Fri) 7:30pm  
**20** (Sat) 2:00pm  
NHK Hall

**Liadov** *Kikimora, légende Op. 63*  
**Prokofiev /Sokhiev** *Romeo and Juliet*, ballet suite  
Tugan Sokhiev, conductor

2024  
02

**A** Concert No. **2004**  
**February**  
**3** (Sat) 6:00pm  
**4** (Sun) 2:00pm  
NHK Hall

**Johann Strauss II** *Im Krapfenwald'l*, polka française Op. 336 (*In Krpfen's Woods*)  
**Shostakovich** *Suite for Variety Orchestra No. 1*  
—*March, Lyrical Waltz, Little Polka, Waltz II*  
**Shostakovich** *Symphony No. 13 B-flat Minor Op. 113, Babi Yar\**  
Michiyoshi Inoue, conductor  
Evgeny Stavinsky, bass\* Orphei Drängar, male chorus\*

**B** Concert No. **2006**  
**February**  
**14** (Wed) 7:00pm  
**15** (Thu) 7:00pm  
Suntory Hall

**Ravel** *Rapsodie espagnole (Spanish Rhapsody)*  
**Prokofiev** *Violin Concerto No. 2 G Minor Op. 63*  
**Falla** *El sombrero de tres picos*, ballet (complete) (*The Three-Cornered Hat*)\*  
Pablo Heras-Casado, conductor  
Augustin Hadelich, violin  
Tamayo Yoshida, soprano\*

**C** Concert No. **2005**  
**February**  
**9** (Fri) 7:30pm  
**10** (Sat) 2:00pm  
NHK Hall

**Wagner** *Siegfried Idyll*  
**R. Strauss** *Ein Heldenleben*, symphonic poem Op. 40 (*A Hero's Life*)  
Eiji Oue, conductor

**Program C**

- Concerts will have a duration of 60 to 80 minutes without an interval.  
 - Pre-concert chamber music performance by the NHK Symphony Orchestra members will be held on stage (from 6:45pm on 1st day and from 1:15pm on 2nd day).

2024  
04

**A** Concert No. **2007**  
**April**  
 13 (Sat) 6:00pm  
 14 (Sun) 2:00pm  
 NHK Hall  
**Schubert** Symphony No. 4 C Minor D. 417  
**Brahms** Symphony No. 1 C Minor Op. 68  
 Marek Janowski, conductor

**B** Concert No. **2009**  
**April**  
 24 (Wed) 7:00pm  
 25 (Thu) 7:00pm  
 Suntory Hall  
**Schumann** *Genoveva*, opera Op. 81—Overture  
**Schumann** Cello Concerto A Minor Op. 129  
**Schumann** Symphony No. 2 C Major Op. 61  
 Christoph Eschenbach, conductor  
 Kian Soltani, cello

**C** Concert No. **2008**  
**April**  
 19 (Fri) 7:30pm  
 20 (Sat) 2:00pm  
 NHK Hall  
**Bruckner** Symphony No. 7 E Major  
 Christoph Eschenbach, conductor

2024  
05

**A** Concert No. **2010**  
**May**  
 11 (Sat) 6:00pm  
 12 (Sun) 2:00pm  
 NHK Hall  
**Panfili** *Abitare la battaglia* [Japan Premiere]  
**Respighi** *Fontane di Roma*, symphonic poem (*Fountains of Rome*)  
**Respighi** *Pini di Roma*, symphonic poem (*Pines of Rome*)  
**Respighi** *Feste Romane*, symphonic poem (*Roman Festivals*)  
 Fabio Luisi, conductor

**B** Concert No. **2012**  
**May**  
 22 (Wed) 7:00pm  
 23 (Thu) 7:00pm  
 Suntory Hall  
**Brahms** Piano Concerto No. 1 D Minor Op. 15  
**Nielsen** Symphony No. 2 B Minor Op. 16, *The 4 Temperaments*  
 Fabio Luisi, conductor  
 Rudolf Buchbinder, piano

**C** Concert No. **2011**  
**May**  
 17 (Fri) 7:30pm  
 18 (Sat) 2:00pm  
 NHK Hall  
**Mendelssohn** *A Midsummer Night's Dream*  
 —Overture, Nocturne, Scherzo, Wedding March  
**Mendelssohn** Symphony No. 5 D Major Op. 107, *Reformation*  
 Fabio Luisi, conductor

2024  
06

**A** Concert No. **2013**  
**June**  
 8 (Sat) 6:00pm  
 9 (Sun) 2:00pm  
 NHK Hall  
**Scriabin** *Rêverie*, Op. 24  
**Scriabin** Piano Concerto F-sharp Minor Op. 20  
**Scriabin** Symphony No. 2 C Minor Op. 29  
 Keitaro Harada, conductor  
 Kyohei Sorita, piano

**B** Concert No. **2015**  
**June**  
 19 (Wed) 7:00pm  
 20 (Thu) 7:00pm  
 Suntory Hall  
**Webern** Passacaglia Op. 1  
**Schönberg** Violin Concerto Op. 36  
**J. S. Bach/Webern** Ricercata  
**Schubert** Symphony No. 5 B-flat Major D. 485  
 Masato Suzuki, conductor  
 Isabelle Faust, violin

**C** Concert No. **2014**  
**June**  
 14 (Fri) 7:30pm  
 15 (Sat) 2:00pm  
 NHK Hall  
**Ibert** *Escales (Ports of Call)*  
**Ravel** Piano Concerto for the Left Hand  
**Debussy** *Nocturnes\**  
 Nodoka Okisawa, conductor  
 Denis Kozhukhin, piano  
 The Philharmonic Chorus of Tokyo, female chorus\*

All performers and programs are subject to change or cancellation depending on the circumstances.

今回は日本指揮界の重鎮、秋山和慶による「オール・モーツァルト・プログラム」  
緻密な音楽解釈としなやかな表現で定評のある田部京子との共演も魅力です。  
プログラムは3曲ともモーツァルト晩年の傑作を揃えました。  
珠玉の名曲と極上の演奏を求め、新緑あふれる上野の森へ出かけませんか？

ゴールデンウィークは、  
新緑あふれる上野で極上の演奏を楽しもう！  
日本最高峰のオーケストラが贈る

指揮：秋山和慶  
ピアノ：田部京子  
管弦楽：NHK交響楽団

# 2023

# 響音

## ゴールデン・クラシック

《オール・モーツァルト・プログラム》 歌劇「魔笛」K.620より序曲  
ピアノ協奏曲 第27番 変口長調 K.595  
交響曲第40番 ト短調 K.550

2023年5月3日(水・祝) 15:30開演(14:45開場)  
東京文化会館 大ホール S 7,800円 A 6,800円 B 5,800円 C 4,800円 D 3,800円(税込)

チケットの  
ご予約

- 東京文化会館チケットサービス 03-5685-0650 <http://www.t-bunka.jp>
- チケットぴあ <https://w.pia.jp/t/nhkso-gw/> (Pコード:232-564) セブン-イレブン
- ローソンチケット <https://l-tike.com/nhksogolden2023/> (Lコード:34974) ローソン、ミニストップ店内Loppi
- イープラス <https://eplus.jp/nhkso-golden2023/> FamilyMart店舗

お問合せ：サンライズプロモーション東京 0570-00-3337(平日12:00~15:00)



主催：MIYAZAWA & Co.

※未就学児童の入場不可。※都合により、出演者・曲目が変更となる場合がございます。

ともに創る未来へ。- Challenge SEITOKU -

かけがえない学生時代、思いきり成長したい。

培った力を、誰かの幸せのために社会で役立てたい。

その意欲を、変化が加速する新時代に活躍する力へ。

自由で、多様で、限りない、学びの世界で学問しよう。

いまの自分を超越る挑戦で、新しい価値を創る力を。

「新しい価値を創造する」学際的なプログラム

### Field Linkage (フィールドリンケージ)

学部・学科を超えた学際的な学びや、社会との連携によるプログラムが始動。  
多面的・多角的な視点や問題解決能力を養い、新たな価値を創造する力を  
育みます。

新時代に生きるリーダーシップを備え、新しい価値を創造し提案できる女性へ

### Business Field Linkage (ビジネスフィールドリンケージ)

高度な専門性を実社会で活かすために、ビジネスの最前線やDX・AIの活用を  
実践的に学ぶプログラムが本格始動。  
先見の視点とスキル、協働的リーダーシップを発揮し、課題解決へと導く、  
新時代の女性リーダーを育成します。

### 2021・2022 実就職率 全国女子大学ランキング



(97.4% 2022年3月卒業生)  
※卒業生500人以上の女子大実就職率  
2022年大学通信調べ



自立するチカラをはぐくむ女性総合大学。

# 聖徳大学

# 聖徳大学短期大学部

〒271-8555 千葉県松戸市岩瀬550 TEL.047-365-1111(大代表)  
<https://www.seitoku-u.ac.jp/>

聖徳大学  
音楽学部(女子)

聖徳大学大学院  
音楽文化研究科  
[博士前期・後期課程](共学)

聖徳大学大学院 聖徳大学教職大学院 聖徳大学 聖徳大学短期大学部 聖徳大学幼児教育専門学校  
光英 VERITAS 高等学校 聖徳大学附属取手聖徳女子高等学校 光英 VERITAS 中学校  
聖徳大学附属取手聖徳女子中学校 聖徳大学附属小学校 聖徳大学三田幼稚園 聖徳大学八王子幼稚園  
聖徳大学多摩幼稚園 聖徳大学附属幼稚園 聖徳大学附属第二幼稚園 聖徳大学附属成田幼稚園  
聖徳大学附属浦安幼稚園 聖徳大学オープン・アカデミー (SOA)



# ME NO ME SINCE 1977 目の眼

2月号 発売中 | 1,650円税込

特集 木地盆  
数寄の結界

最新号 WEB 無料公開中  
<https://menonline.com>



# オーディオをもっと自由に。

ティアックは、今求められるオーディオについて真剣に考えました。

高音質であることはもちろんですが、多様化するライフスタイルは人それぞれで

オーディオの形も、もっと自由であるべきと考えます。

デスクトップ、リビング、書斎、寝室、それぞれにそれぞれのニーズがあって、  
そんな暮らしの中で、常に良い音をお届けする事がティアックの使命と考えます。

良い音と暮らす幸せ。ティアックにお任せください。

Reference 700



Reference 500



Reference 300



## TEAC

ティアックは1953年創業の日本のオーディオブランドです。

# 脱炭素の道へ。 水素とLPガスが加速する。



2050年、温暖化ガス排出実質ゼロ社会の実現を目指して。

イワタニはLPガス・**Maruigas**の全国330万世帯以上の販売ネットワークを活かし、脱炭素の主役となる水素を暮らしと産業にお届けする準備を進めています。

さらに、環境への負荷を減らすために、水素やアンモニアを混合した低炭素なLPガスの開発をはじめ、廃プラスチックやバイオガス由来の水素やLPガス製造、新しいLPガス合成技術などを推進。

私たちは、水素とLPガスで確かな答えを持つ

クリーンエネルギーのトップランナーとして走り続けます。

## 水素&LPガスシェアNo.1\*

\*国内における販売シェア(ただし、水素はオンサイト・バイピングを除く。2022年5月現在、自社調べ)

**Iwatani**  
岩谷産業株式会社